

2 広報・広聴

問14 広報活動の周知度

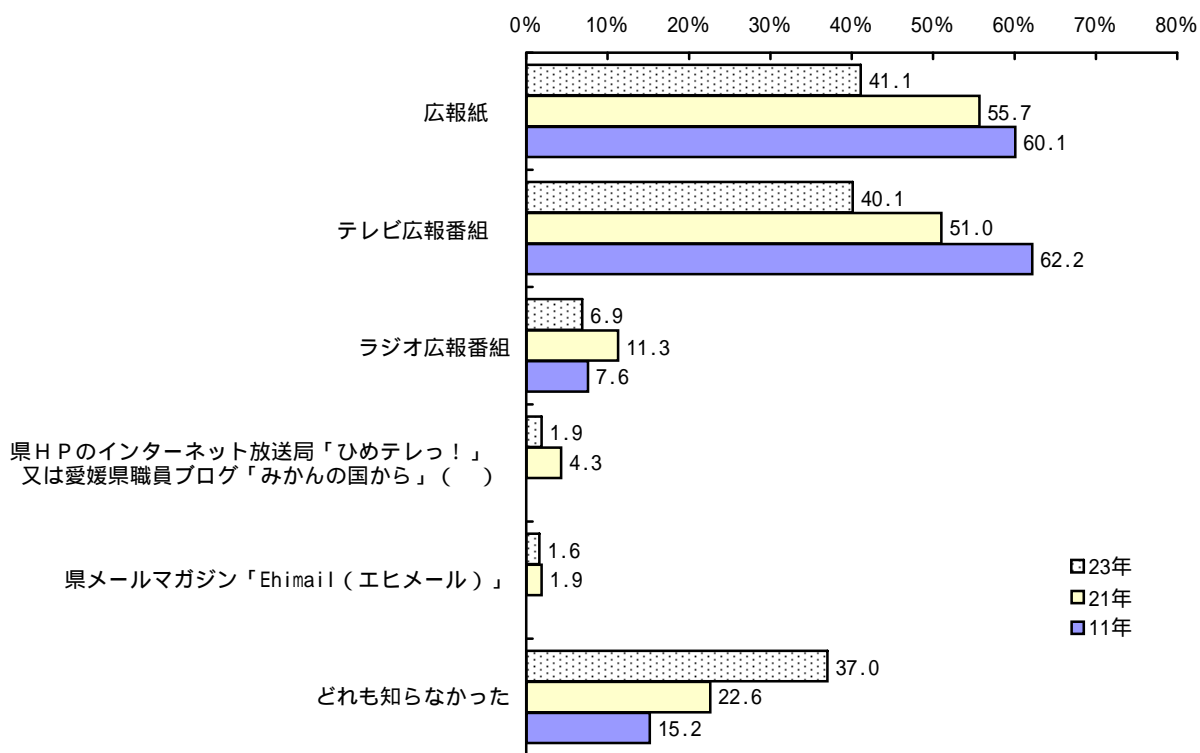
県では、次のような広報を行っています。あなたが知っているものをいくつでも選んで番号を で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 テレビ広報番組： 愛顔のえひめ（南海放送） 愛顔のえひめ特別編「行って来うわい！ ～愛媛のええとこ～」（南海放送）		40.1
2 広報紙：「愛顔のえひめ」 （新聞折り込みによる広報紙）		41.1
3 ラジオ広報番組 〔 FM 愛顔のえひめ（FM愛媛） 週刊 愛顔のえひめ（南海放送ラジオ）		6.9
4 県メールマガジン：「Ehimail(エヒメール)」		1.6
5 県ホームページのインターネット放送局「ひめ テレっ！」又は愛媛県職員ブログ「みかんの国から」		1.9
6 どれも知らなかった		37.0

県が行っている広報活動のうち、知っているものを聞いたところ、「広報紙」（41.1%）及び「テレビ広報番組」（40.1%）と答えた人の割合が特に多く、以下「ラジオ広報番組」（6.9%）、「県ホームページのインターネット放送局「ひめテレっ！」又は愛媛県職員ブログ「みかんの国から」（1.9%）、「県メールマガジン「Ehimail」（1.6%）の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「広報紙」と答えた人の割合が14.6%減少（平成11年調査より19.0%減少）、「テレビ広報番組」が10.9%減少（平成11年調査より22.1%減少）、「ラジオ広報番組」が4.4%減少（平成11年調査より0.7%減少）している。

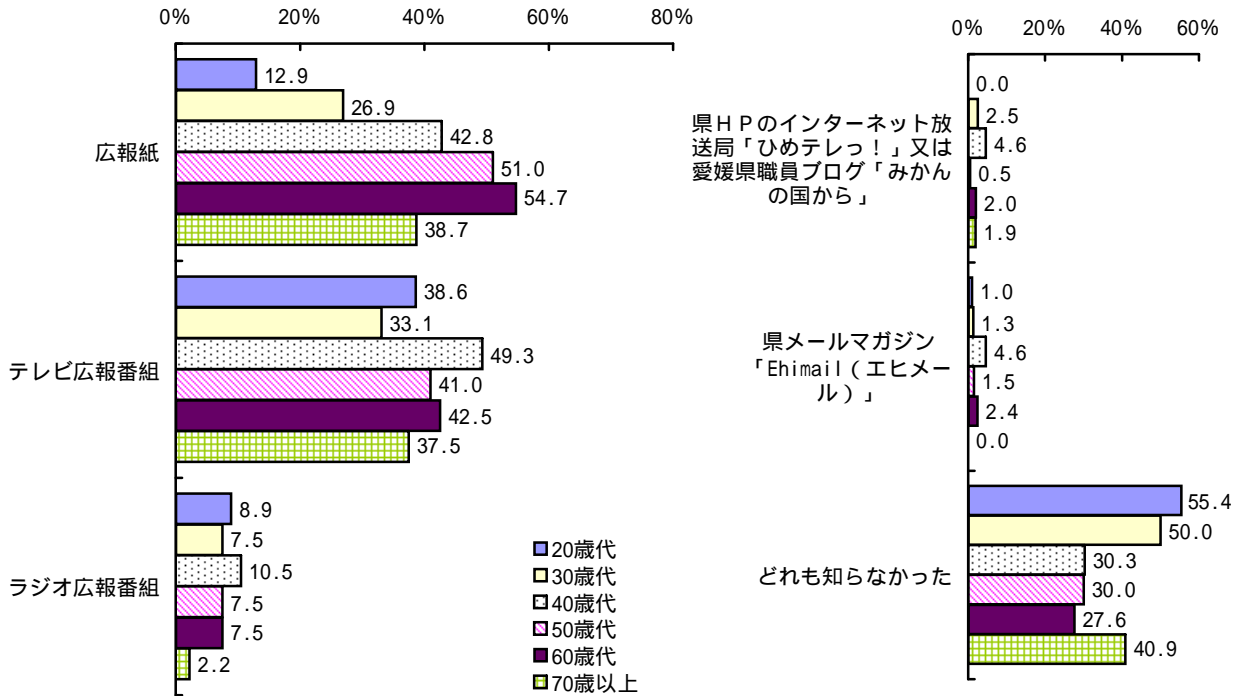
なお、「どれも知らなかった」と答えた人の割合が37.0%となっており、前回調査よりも14.4%増加（平成11年調査より21.8%増加）している。



() 平成21年調査時は「県HPの『動画で見る県政情報』」

【年齢別】

年齢別にみると、50歳代及び60歳代では「広報紙」と答えた人の割合が最も多く、他の年齢層と比較しても特になくなっていて。40歳代では「テレビ広報番組」が最も多くなっている。一方で「どれも知らなかった」が最も多い回答となっているのは、20歳代（55.4%：前回調査より22.1%増加）、30歳代（50.0%：前回調査より27.6%増加）及び70歳以上（40.9%：前回調査より10.9%増加）であった。また、「広報紙」と答えた人の割合は20歳代で他の年齢層と比較して特になくなっている。

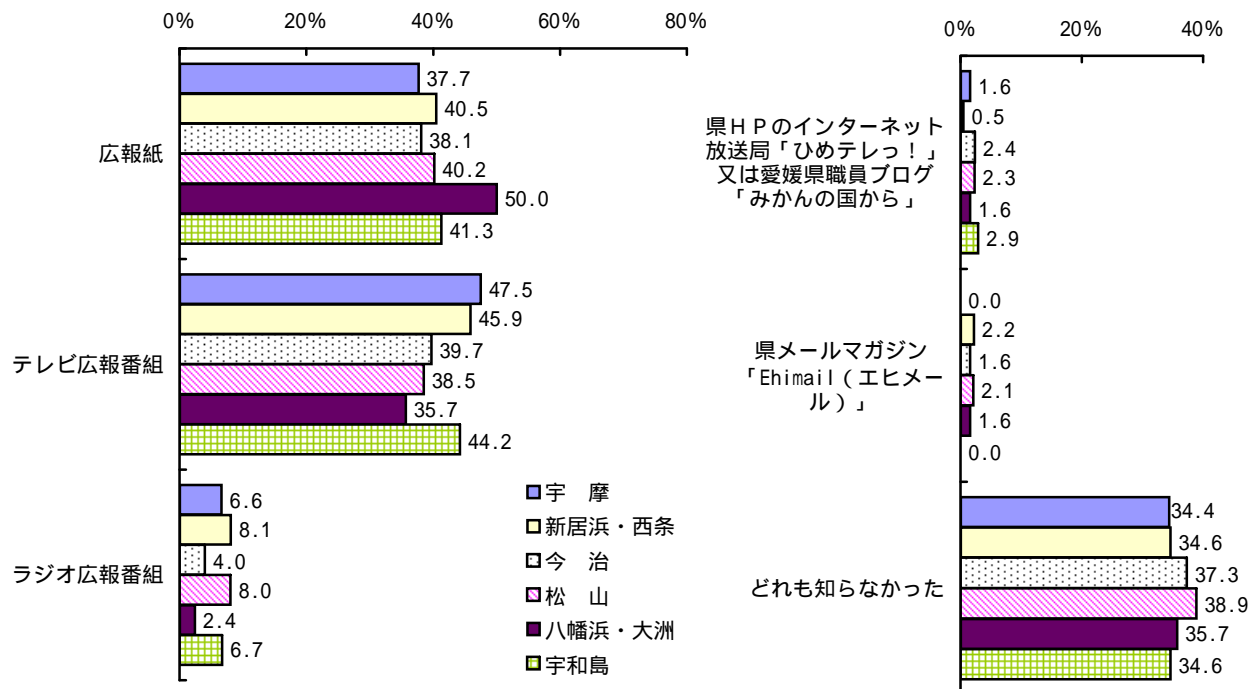


【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域、新居浜・西条圏域、今治圏域及び宇和島圏域では、「テレビ広報番組」と答えた人の割合が最も多く、松山圏域及び八幡浜・大洲圏域では、「広報紙」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「どれも知らなかった」と答えた人の割合は、宇摩圏域を除く全ての圏域で前回調査よりも増加しており、特に松山圏域では前回調査より19.3%増加の38.9%となっている。

この他、前回調査と比較すると、「広報紙」と答えた人の割合は松山圏域（19.0%減少）で、「テレビ広報番組」は松山圏域（15.6%減少）及び八幡浜・大洲圏域（15.3%減少）で大きく変化している。



問15 テレビ広報番組の視聴経験

県のテレビ広報番組（愛顔のえひめ（南海放送 日曜21：54～22：00）、再放送（南海放送 土曜24：50～24：55）、（愛媛CATV 毎日6：30～6：34）、愛顔のえひめ特別編「行って来うわい！～愛媛のええとこ～」（南海放送 毎月第4日曜 12：50～12：55））をご覧になったことがありますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

- | | | |
|---|-------------|------|
| 1 | 又は を見たことがある | (%) |
| 2 | も も見たことがない | 62.9 |

《テレビ広報番組を見ての感想》 (回答者 = 399人) (%)

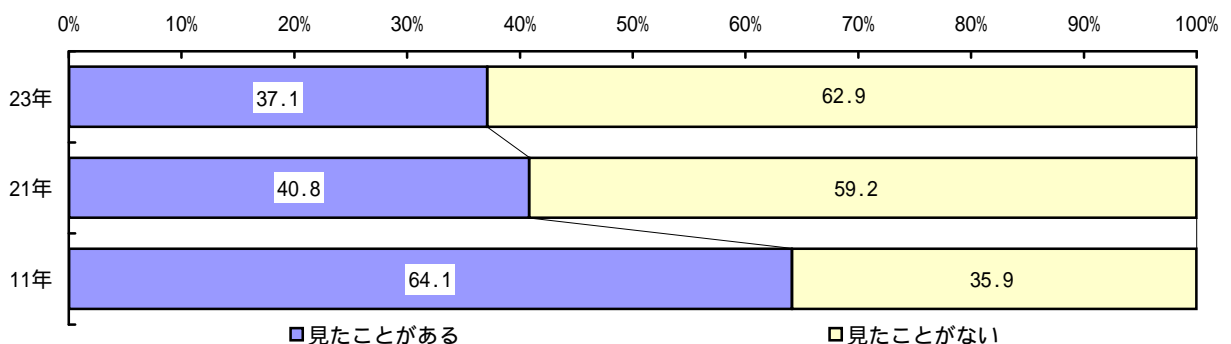
- | | | |
|---|--------------------------|------|
| 1 | 番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった | 27.1 |
| 2 | 番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった | 44.4 |
| 3 | 番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい | 15.0 |
| 4 | 番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい | 8.8 |
| 5 | その他 | 4.8 |

《「見たことがない」理由》 (回答者 = 679人) (%)

- | | | |
|---|-----------------------------|------|
| 1 | 放送されていることを知らなかった | 63.3 |
| 2 | 仕事の都合などで、現在の放送時間では見ることができない | 16.5 |
| 3 | 広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない | 10.0 |
| 4 | その他 | 10.2 |

県のテレビ広報番組を見たことがあるかを聞いたところ、「見たことがない」と答えた人の割合が62.9%で、「見たことがある」の37.1%を25.8%上回っている。

また、前回調査と比較すると、「見たことがない」と答えた人の割合が3.7%増加している。(平成11年調査より27.0%増加)

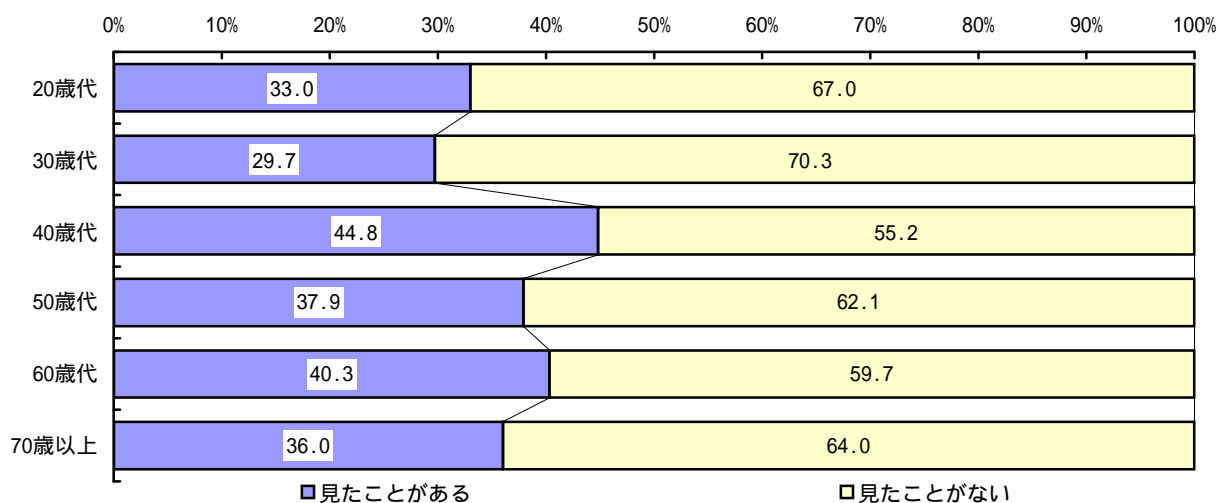


注 平成11年調査の「見たことがある」は、全体から「どれも見たことがない」と答えた人の割合を減じた数値。平成11年度調査時点では9番組を放送。

【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「見たことがある」と答えた人の割合が「見たことがない」を下回っており、中でも20歳代及び30歳代で他の年齢層と比較してやや少なくなっている。

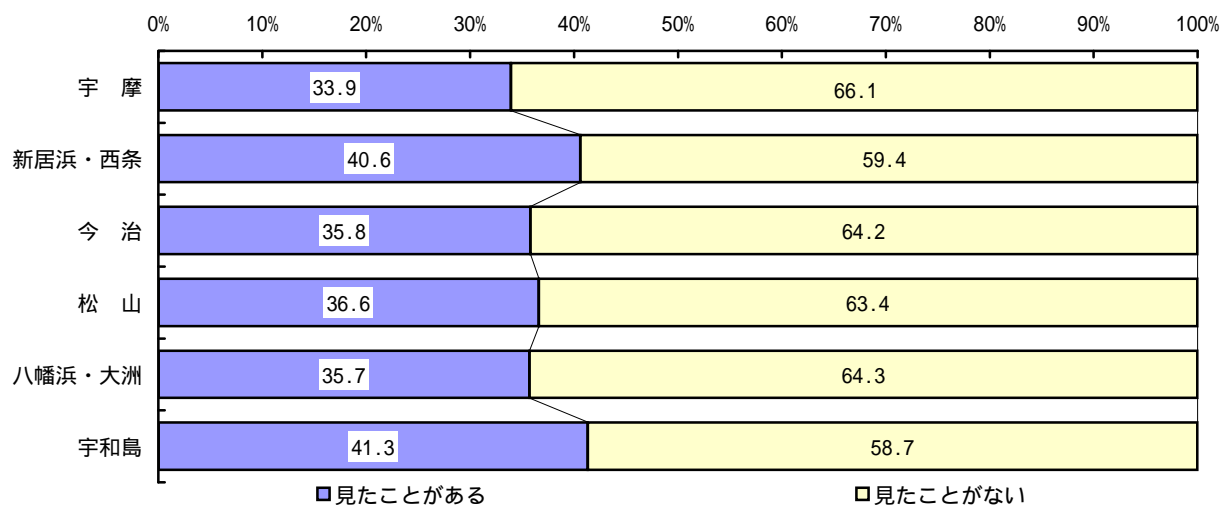
また、前回調査と比較すると、「見たことがない」と答えた人の割合は、20歳代（7.0%増加）、30歳代（10.2%増加）及び50歳代（9.9%増加）で大きく増加している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「見たことがある」と答えた人の割合の方が「見たことがない」を下回っている。

また、「見たことがない」と答えた人の割合は、前回調査より松山圏域（8.9%増加）及び八幡浜・大洲圏域（11.6%増加）で大きく増加している。

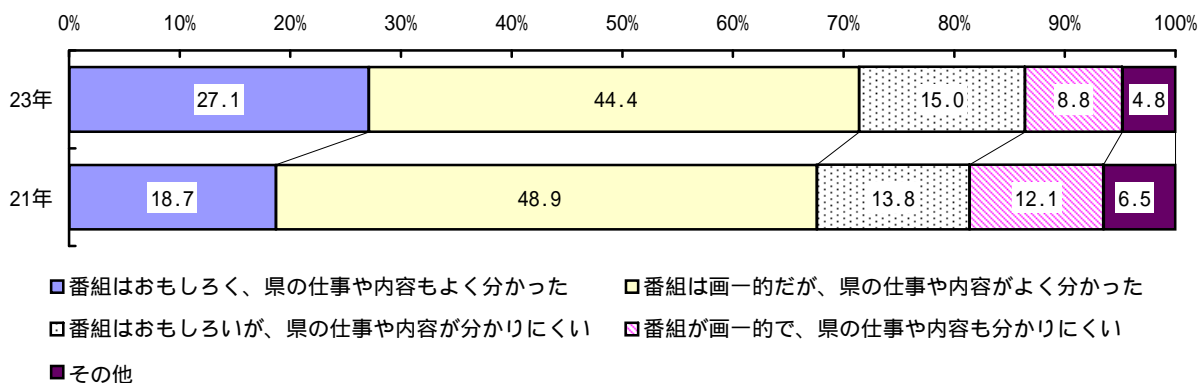


《テレビ広報番組を見ての感想》

県のテレビ広報番組を見たことがあると答えた人に、その感想を聞くと、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が44.4%で特に多く、次いで「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」（27.1%）、「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」（15.0%）となっている。

また、前回調査と比較すると、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が4.5%減少し、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」が8.4%増加している。

なお、「県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合を合計すると71.5%（前回調査より3.9%増加）となっている。

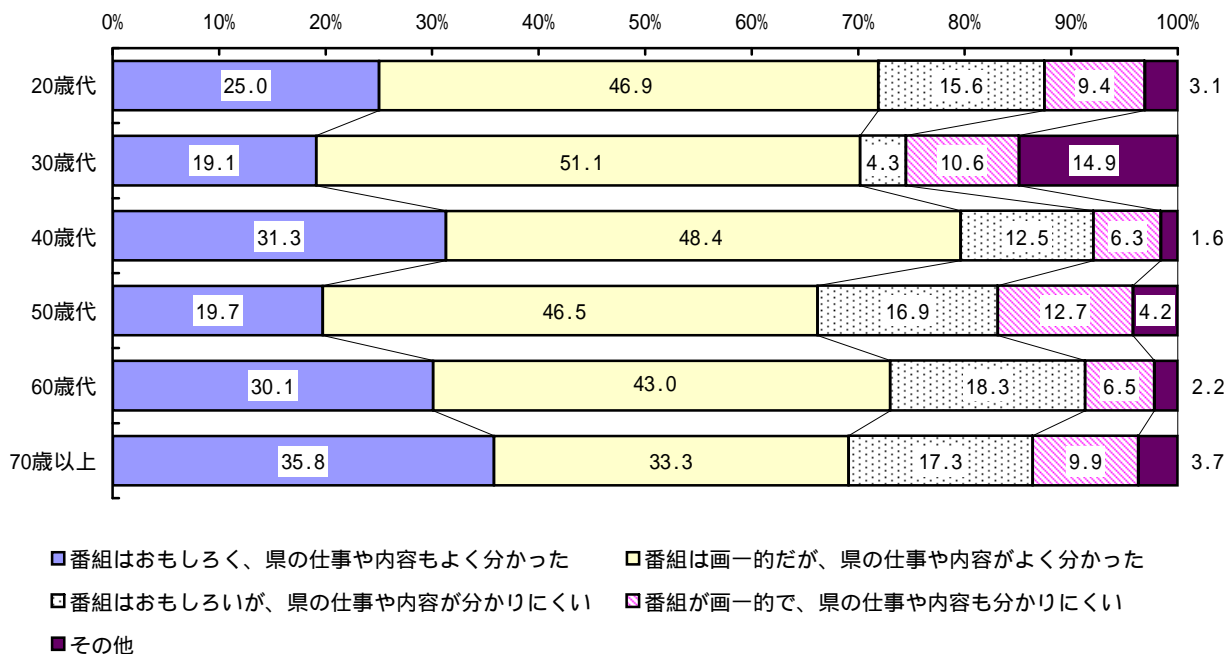


【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上を除く全ての年齢層で「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、全ての年齢層で「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」と答えた人の割合が前回調査より増加しており、中でも70歳以上で16.0%増加している。

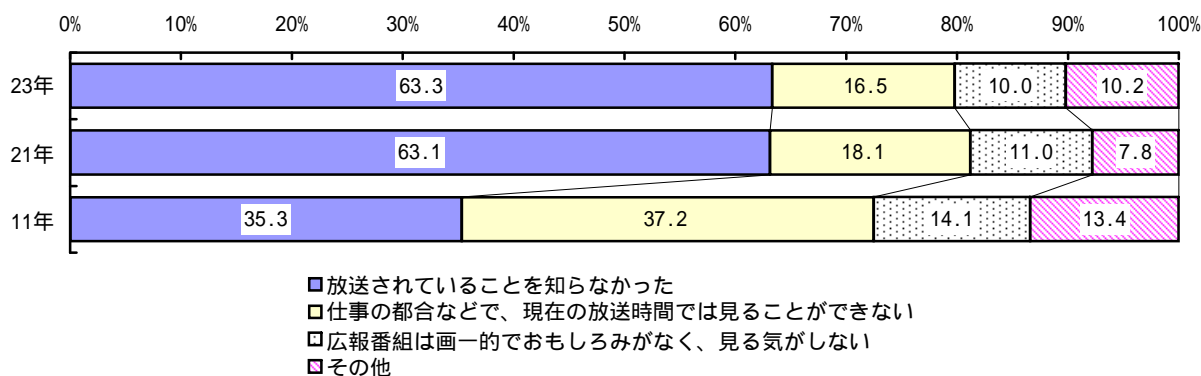
この他、「番組がおもしろい」と答えた人の割合を合計すると、20歳代、40歳代、60歳代及び70歳以上で40%を超えているが、30歳代では23.4%（前回調査より9.2%減少）と特に少なくなっている。



《見たことがない理由》

県のテレビ広報番組を「見たことがない」と答えた人に、その理由を聞くと、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が63.3%と特に多く、次いで「仕事の都合などで、現在の放送時間では見るができない」（16.5%）、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」（10.0%）となっている。

また、前回調査と比較すると、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、見る気がしない」と「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合は、ほぼ前回と同様の回答割合であった。

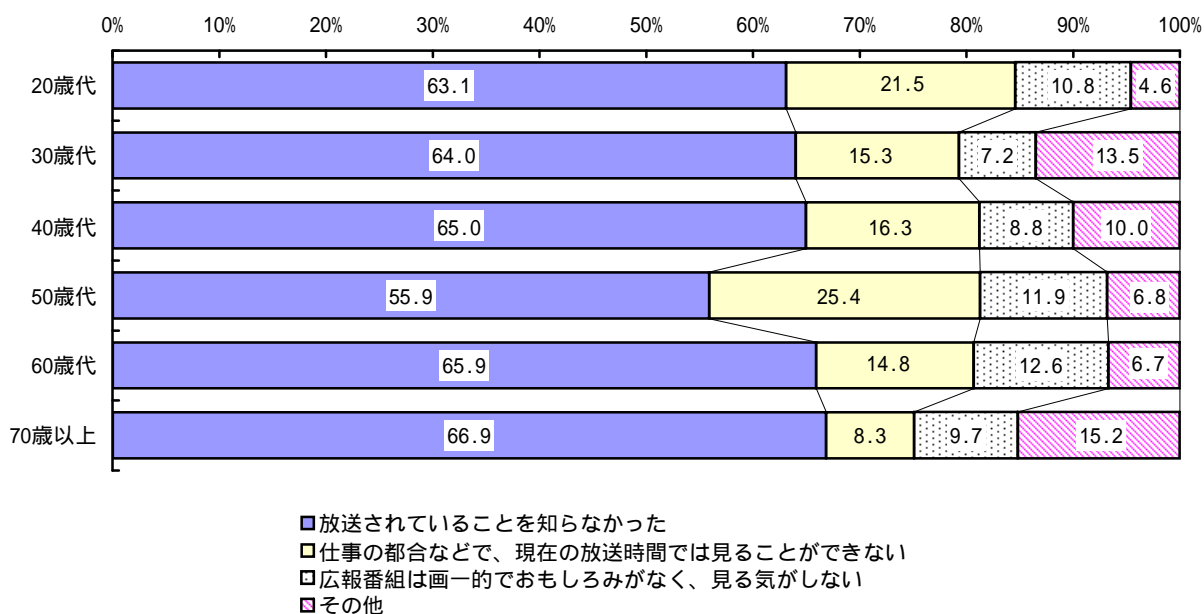


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が最も多くなっており、50歳代を除き60%を超えている。

また、同項目では50歳代及び70歳以上以外の年齢層で前回調査より増加しており、中でも40歳代は13.3%増加している。一方、70歳代以上は、11.5%減少している。

この他、「仕事の都合などで、現在の放送時間では見るができない」と答えた人の割合は20歳代及び50歳代で、他の年齢層と比較して多くなっている。



問16 ラジオ広報番組の聴取経験

次にあげる県のラジオ広報番組であなたがお聞きになったことがあるものをいくつか選んで番号を で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 FM 愛顔のえひめ (FM愛媛) 毎週月～金曜日 11:54～11:55		5.1
2 週刊 愛顔のえひめ (南海放送ラジオ) 毎週土曜日 9:20～9:30		5.2
[調査時点では、放送日に誤りがありました。 (誤: 毎週日曜日 9:45～9:55)]		
3 どれも聞いたことがない		91.3

《ラジオ広報番組を聞いての感想》 (回答者 = 92人) (%)

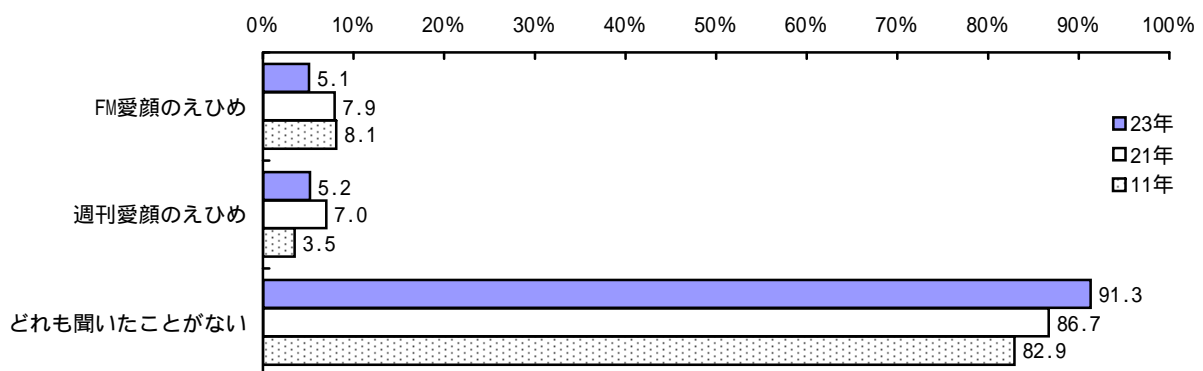
1 番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった	25.0
2 番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった	40.2
3 番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい	16.3
4 番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい	9.8
5 その他	8.7

《「どれも聞いたことがない」理由》 (回答者 = 991人) (%)

1 放送されていることを知らなかった	55.1
2 仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない	16.9
3 広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない	4.2
4 その他	23.8

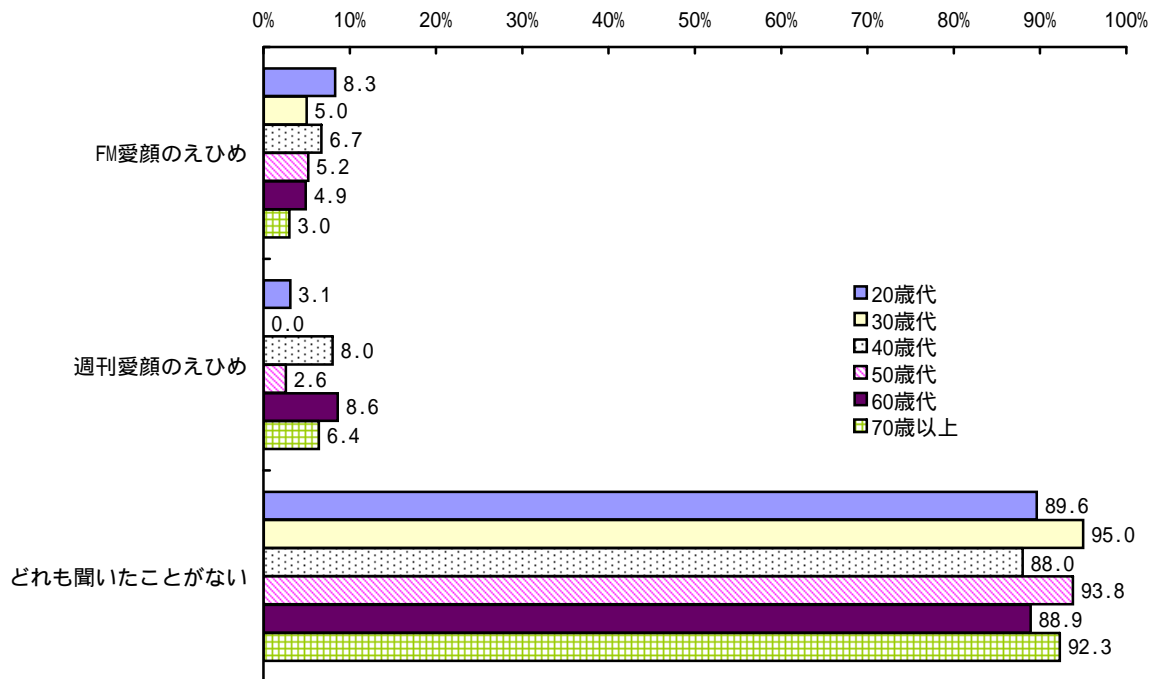
県のラジオ広報番組のうちで、聞いたことがあるものについて聞いたところ、「FM 愛顔のえひめ」と答えた人の割合が5.1%、「週刊 愛顔のえひめ」が5.2%、「どれも聞いたことがない」が91.3%となっている。

また、前回調査と比較すると、「県政FM情報」と答えた人の割合が2.8%減少、「週刊 愛顔のえひめ」が1.8%減少、「どれも聞いたことがない」が4.6%増加している。



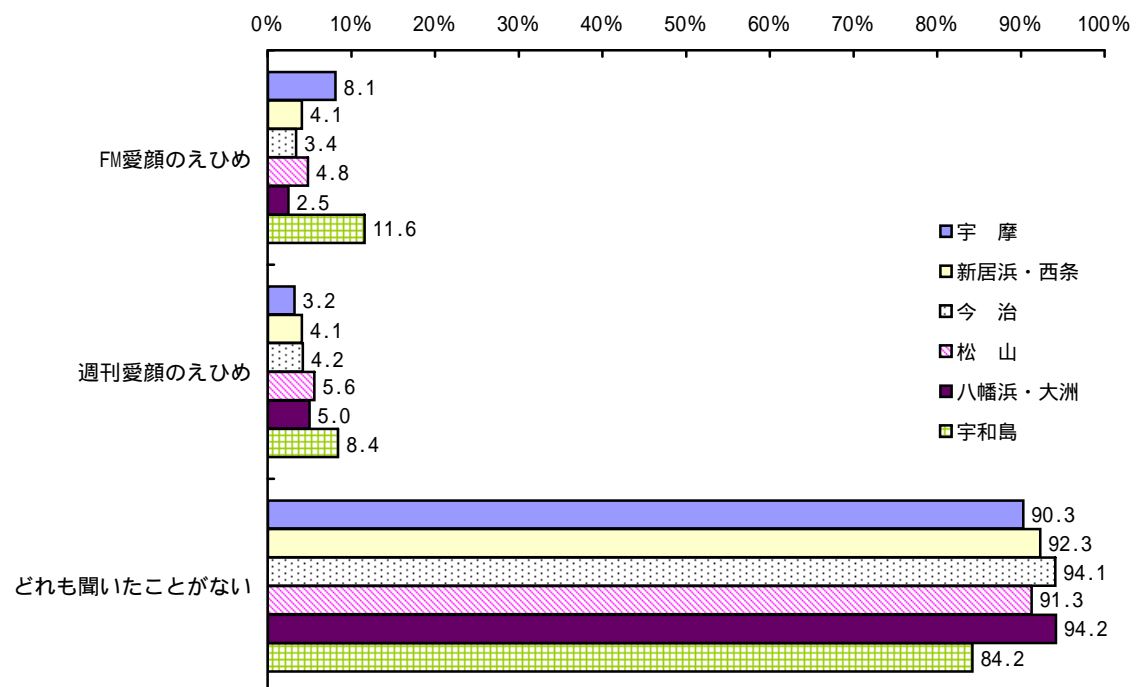
【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「どれも聞いたことがない」と答えた人の割合が圧倒的に多くなっている。中でも30歳代、50歳代及び70歳以上で他の年齢層と比較して多くなっている。
また、「FM愛顔のえひめ」と答えた人の割合は40歳代で前回調査と比較して5.8%減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「どれも聞いたことがない」と答えた人の割合が圧倒的に多くなっており、宇和島圏域を除き90%を超えている。
また、「FM愛顔のえひめ」と答えた人の割合は、宇摩圏域及び宇和島圏域で、「週刊愛顔のえひめ」と答えた人の割合は、宇和島圏域で他の圏域と比較してやや多くなっている。

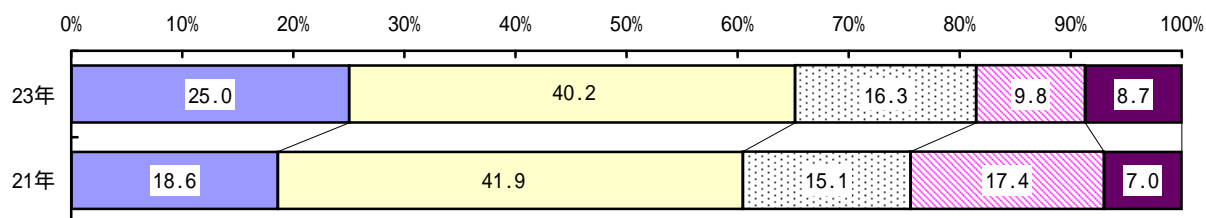


【ラジオ広報番組を聞いての感想】

県のラジオ広報番組を聞いたことがある人に、その感想を聞くと、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が40.2%で特に多く、次いで「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」（25.0%）、「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」（16.3%）となっている。

また、前回調査と比較すると、「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が1.7%減少、「番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった」が6.4%増加しているほか、「番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい」（7.6%減少）と「番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい」（1.2%増加）の順位が入れ替わっている。

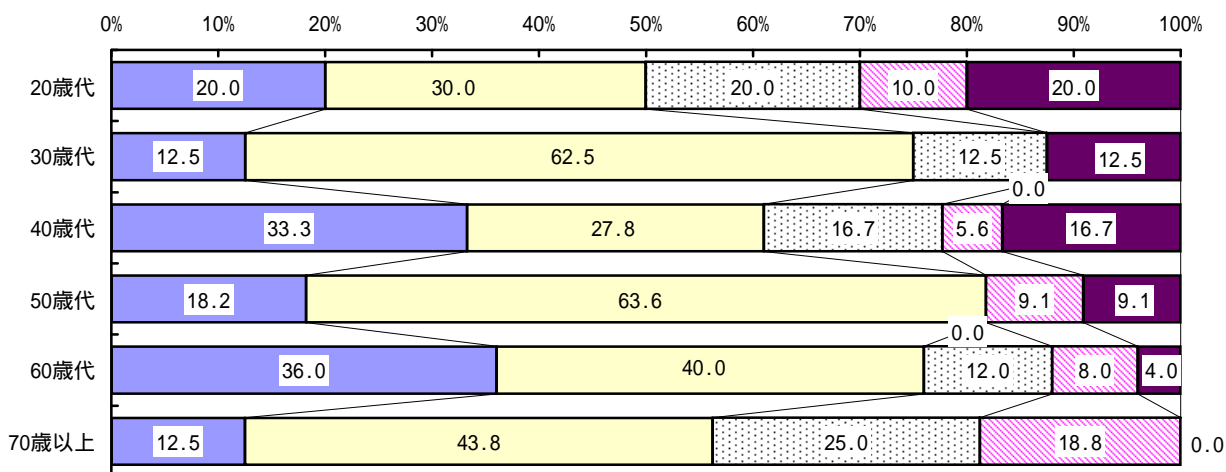
なお、「番組が画一的だ」と答えた人の割合を合計すると50.0%（前回調査より9.3%減少）となっている。



- 番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった
- 番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった
- 番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい
- 番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい
- その他

【年齢別】

年齢別にみると、40歳代を除く全ての年齢層で「番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった」と答えた人の割合が最も多く、中でも30歳代及び50歳代では他の年齢層と比較して特に多くなっている。

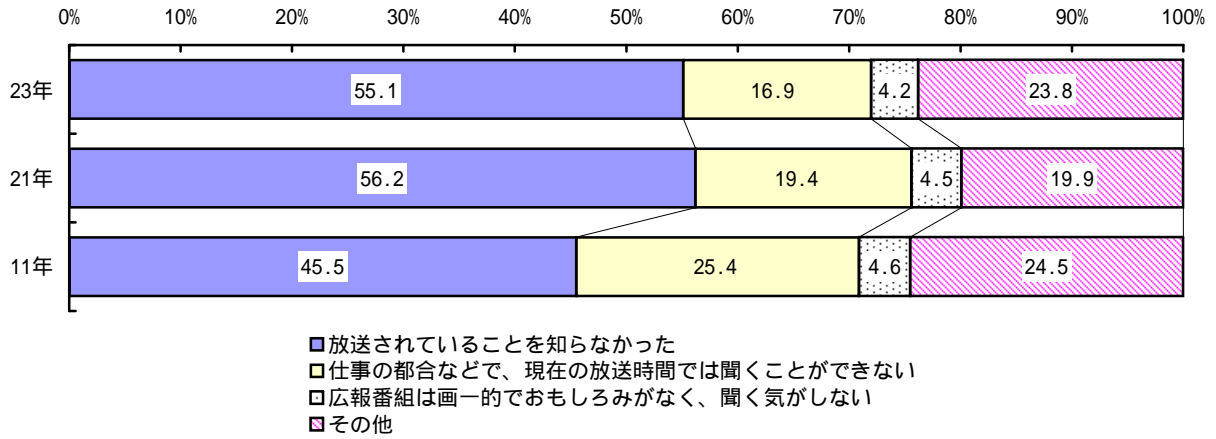


- 番組はおもしろく、県の仕事や内容もよく分かった
- 番組は画一的だが、県の仕事や内容がよく分かった
- 番組はおもしろいが、県の仕事や内容が分かりにくい
- 番組が画一的で、県の仕事や内容も分かりにくい
- その他

《聞いたことがない理由》

県のラジオ広報番組を「どれも聞いたことがない」と答えた人に、その理由を聞くと、「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が55.1%と特に多く、次いで「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」（16.9%）、「広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない」（4.2%）となっている。

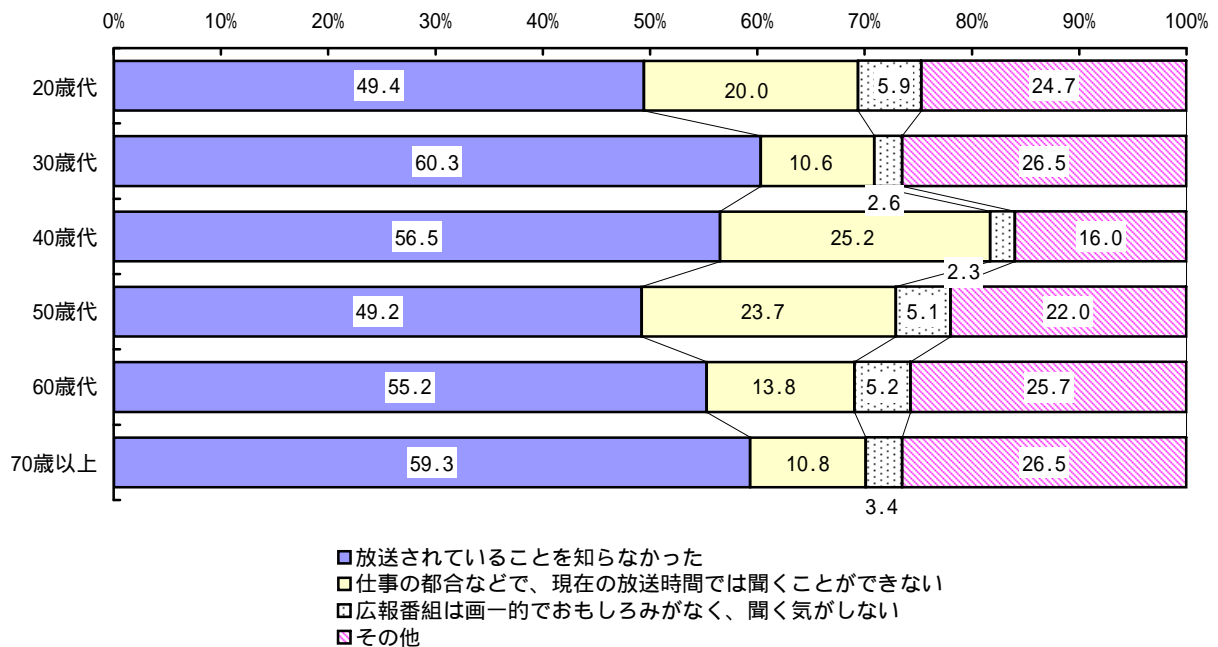
また、前回調査と比較すると、「放送されていることを知らなかった」と「広報番組は画一的でおもしろみがなく、聞く気がしない」と答えた人の割合は、ほぼ前回と同様であるが、「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」が2.5%減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「放送されていることを知らなかった」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「仕事の都合などで、現在の放送時間では聞くことができない」と答えた人の割合は40歳代及び50歳代で他の年齢層と比較して多くなっている。



問17 広報紙の周知度

県では、県政の様々な情報を県民の皆さんにお知らせするため、毎月1回、広報紙「愛顔のえひめ」を発行し、新聞折り込みなどで各ご家庭に直接お届けしています。

あなたは、この広報紙をご存じでしたか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 知っていた	49.6
2 知らなかった	50.4

それでは、あなたは、この広報紙「愛顔のえひめ」をどの程度読んでいますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

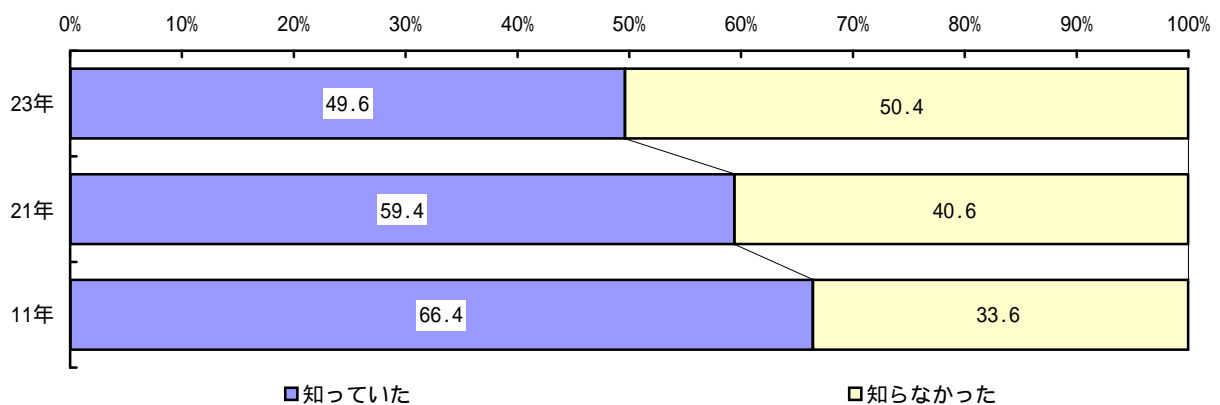
	(回答者 = 581人) (%)
1 全体をよく読んでいる	17.0
2 興味のあるところを選んで読んでいる	49.9
3 見出し程度しか読まない	22.5
4 ほとんど読むことはない	8.8
5 まったく読まない	1.7

《広報紙「愛顔のえひめ」を見ての感想》 (回答者 = 539人) (%)

1 紙面は見やすく、情報量も適当である	56.0
2 紙面は見づらいが、情報量は適当である	15.2
3 紙面は見やすいが、情報量が少ない	15.4
4 紙面は見づらく、情報量も少ない	3.9
5 その他	9.5

広報紙「愛顔のえひめ」を知っているかどうかを聞いたところ、「知っていた」と答えた人と「知らなかった」と答えた人の割合はほぼ同率であった。

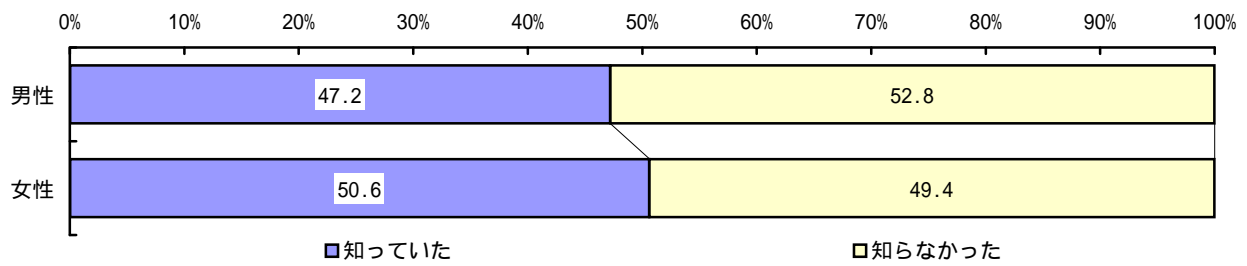
また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合が9.8%減少している。(平成11年調査より16.8%減少)



(注) 平成11年調査の「知らなかった」は全体から「知っていた」と答えた人の割合を減じた数値。

【性別】

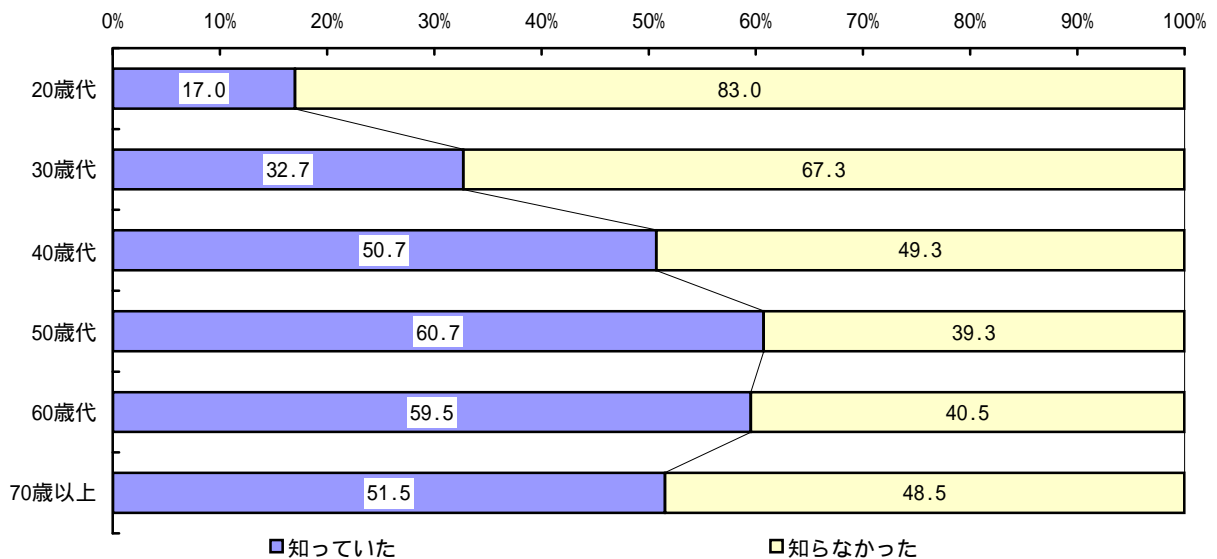
性別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は、女性（50.6%：前回調査より10.2%減少）の方が男性（47.2%：前回調査より10.8%減少）より3.4%多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、40歳以上の年齢層で「知っていた」と答えた人の割合の方が多く、中でも50歳代及び60歳代で他の年齢層と比較して特に多くなっている。20歳代では、「知っていた」は17.0%となっている。

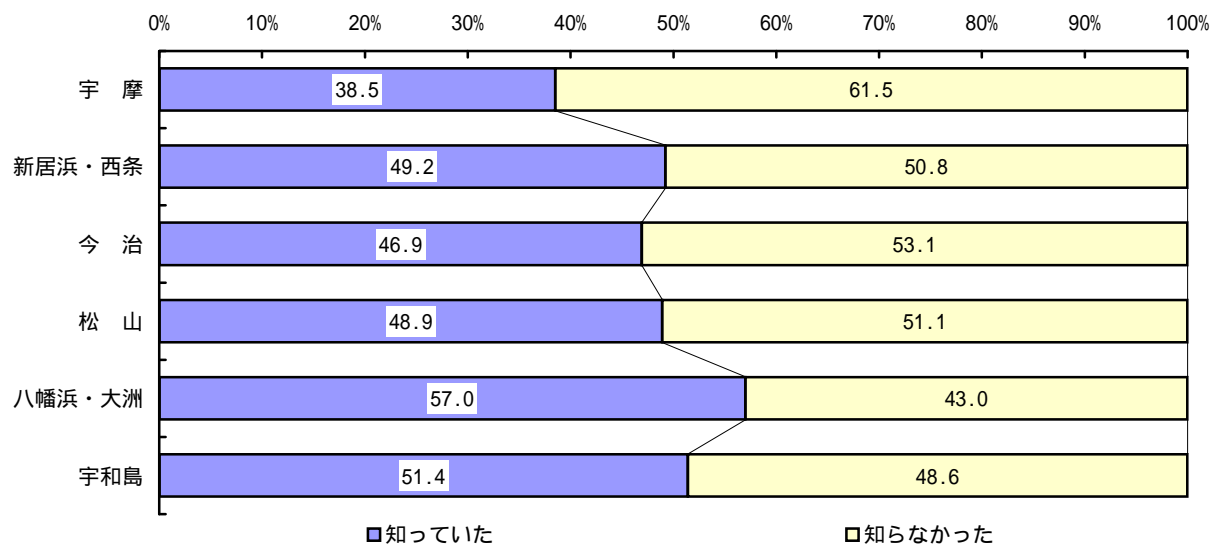
また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合が全ての年齢層で減少し、中でも30歳代（18.3%減少）、40歳代（20.0%減少）で大きく減少している。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では「知っていた」と答えた人の割合の方が多く、その他の圏域では「知らなかった」と答えた人の割合の方が多かった。

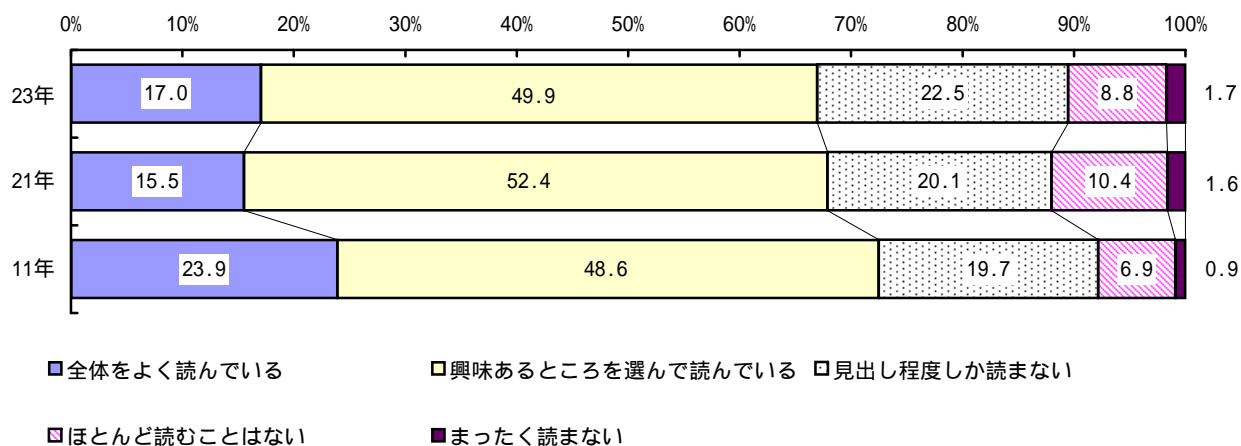
また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合が全圏域で減少しているが、中でも松山圏域（13.9%減少）で大きく減少している。



《広報紙への関心度》

広報紙を「知っていた」と答えた人に、どの程度読んでいるかを聞いたところ、「興味のあるところを選んで読んでいる」と答えた人の割合が49.9%と特に多く、以下「見出し程度しか読まない」（22.5%）、「全体をよく読んでいる」（17.0%）となっている。

また、前回調査と比較すると、「興味のあるところを選んで読んでいる」と答えた人の割合が2.5%減少し、「見出し程度しか読まない」は2.4%増加している。

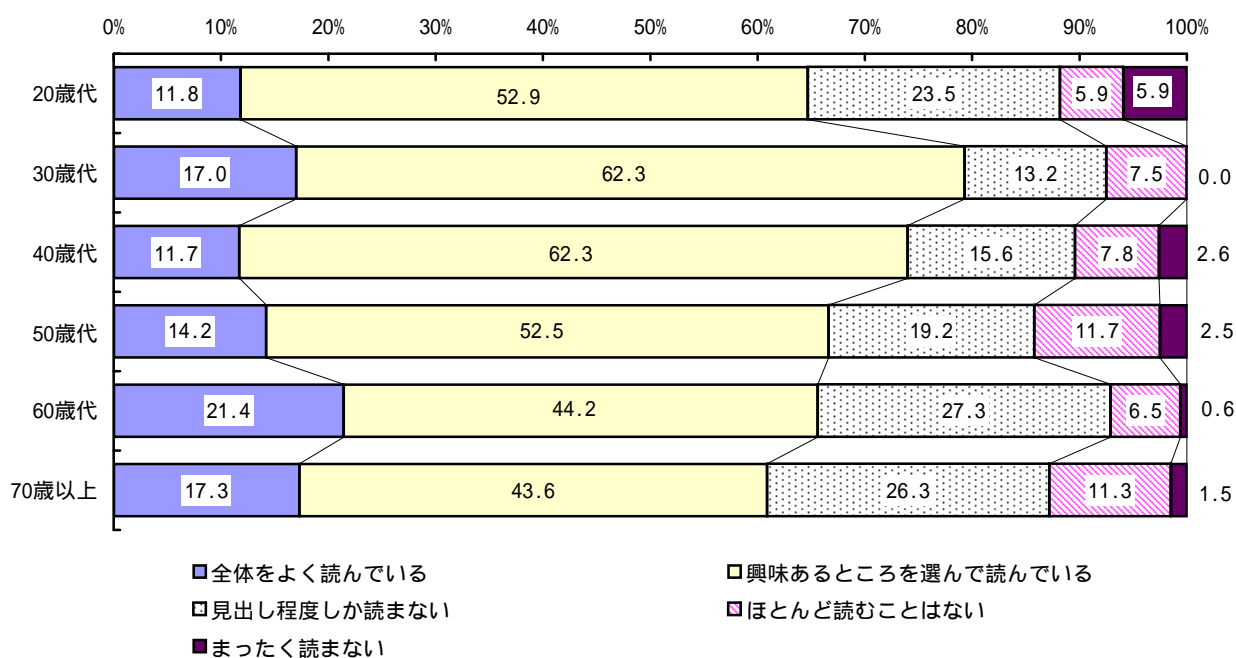


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「興味のあるところを選んで読んでいる」と答えた人の割合が最も多く、中でも30歳代（62.3%）及び40歳代（62.3%）で他の年齢層と比較して多くなっている。

また、「見出し程度しか読まない」と答えた人の割合は60歳代（27.3%）及び70歳以上（26.3%）で他の年齢層と比較して多くなっている。

この他、「読んでいる」（「全体をよく読んでいる」及び「興味のあるところを選んで読んでいる」）と答えた人の割合は、全ての年齢層で60%を超えており、特に30歳代（79.3%）及び40歳代（74.0%）で多く、20歳代では前回調査と比較すると10.1%増加している。

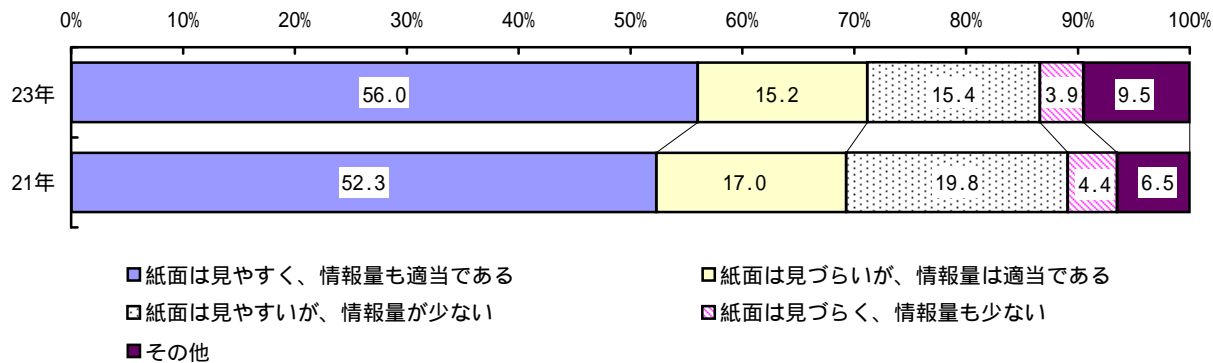


《広報紙を見ての感想》

広報紙を見ての感想を聞いたところ、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が56.0%で特に多く、以下「紙面は見やすいが、情報量が少ない」（15.4%）、「紙面は見づらいが、情報量は適当である」（15.2%）、「紙面は見づらく、情報量も少ない」（3.9%）となっている。

また、前回調査と比較すると、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が3.7%増加している。

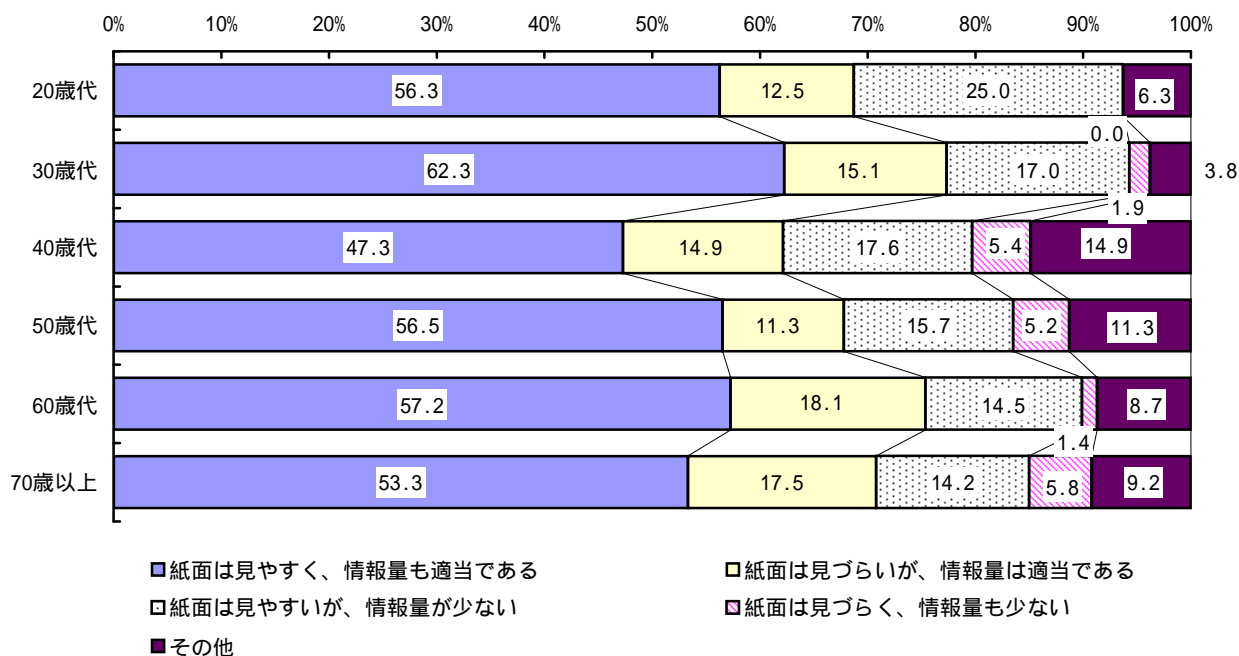
この他、「紙面が見やすい」と答えた人の割合の合計は71.4%で前回調査とほぼ同様である。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合が最も多く、中でも30歳代（62.3%）で他の年齢層と比較して多くなっている。

また、前回調査と比較すると、「紙面は見やすく、情報量も適当である」と答えた人の割合は20歳代（9.4%増加）及び50歳代（11.2%増加）で大きく増加し、「紙面は見やすいが、情報量が少ない」は20歳代（6.2%増加）で大きく増加し、50歳代（7.6%減少）で大きく減少している。



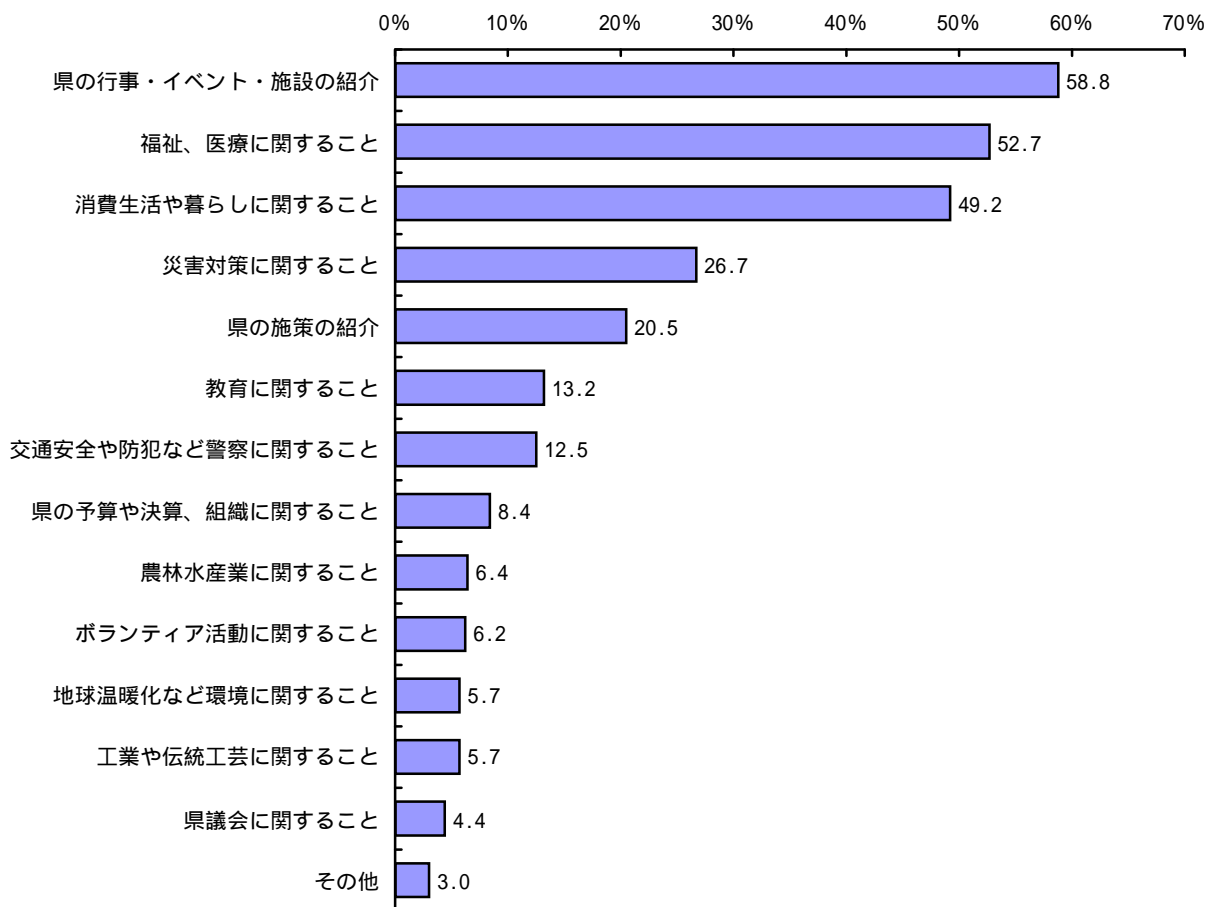
問18 広報紙で取り上げるテーマの希望

広報紙「愛顔のえひめ」について、今後、どのようなテーマを取り上げてほしいですか。次の中から三つまで選んで番号を で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県の施策の紹介		20.5
2 県の行事・イベント・施設の紹介		58.8
3 県の予算や決算、組織に関すること		8.4
4 福祉、医療に関すること		52.7
5 教育に関すること		13.2
6 消費生活や暮らしに関すること		49.2
7 地球温暖化など環境に関すること		5.7
8 ボランティア活動に関すること		6.2
9 災害対策に関すること		26.7
10 農林水産業に関すること		6.4
11 工業や伝統工芸に関すること		5.7
12 交通安全や防犯など警察に関すること		12.5
13 県議会に関すること		4.4
14 その他		3.0

(「5 教育に関すること」は、今回調査から)

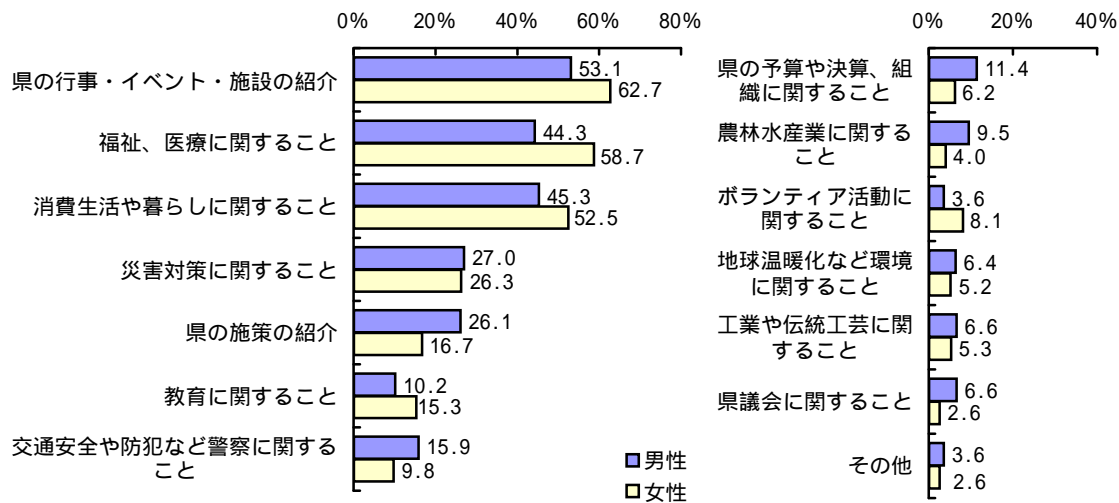
広報紙「愛顔のえひめ」にどのようなテーマを取り上げてほしいかを聞いたところ、「県の行事・イベント・施設の紹介」(58.8%)、「福祉、医療に関すること」(52.7%)及び「消費生活や暮らしに関すること」(49.2%)と答えた人の割合が特に多く、以下「災害対策に関すること」(26.7%)、「県の施策の紹介」(20.5%)、「教育に関すること」(13.2%)の順となっている。



【性別】

性別にみると、男女共に「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が最も多く、特に女性（62.7%）の方が男性（53.1%）より9.6%多くなっている。

また、「福祉、医療に関すること」、「消費生活や暮らしに関すること」及び「教育に関すること」などは女性の方が多くなっており、「県の施策の紹介」、「県の予算や決算、組織に関すること」及び「交通安全や防犯など警察に関すること」などは男性の方が多くなっている。

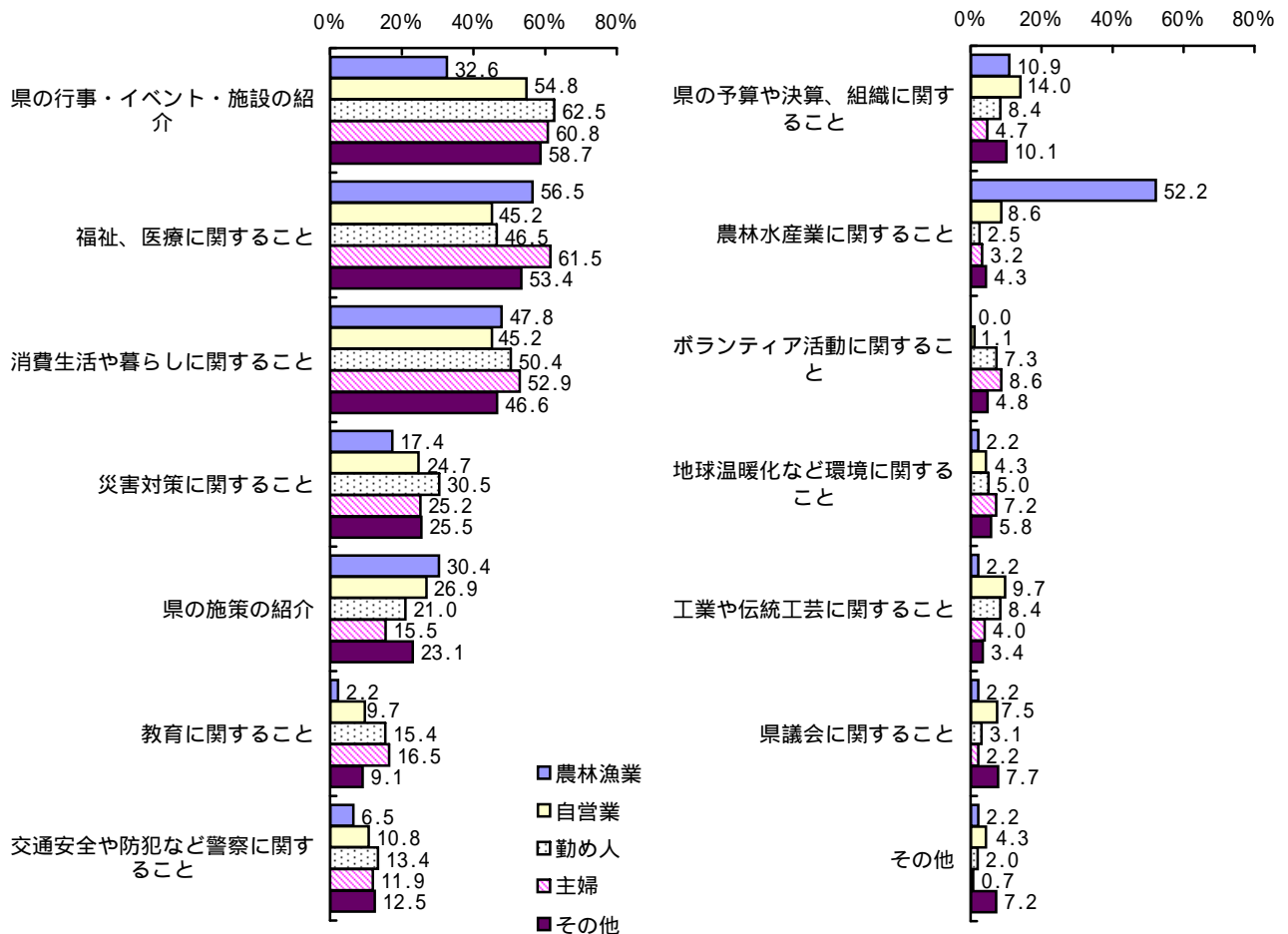


【職業別】

職業別にみると、自営業、勤め人及びその他では「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業及び主婦では「福祉、医療に関すること」が最も多くなっている。

また、農林漁業を除く全ての職種で「県の行事・イベント・施設の紹介」と答えた人の割合が50%を超えている。

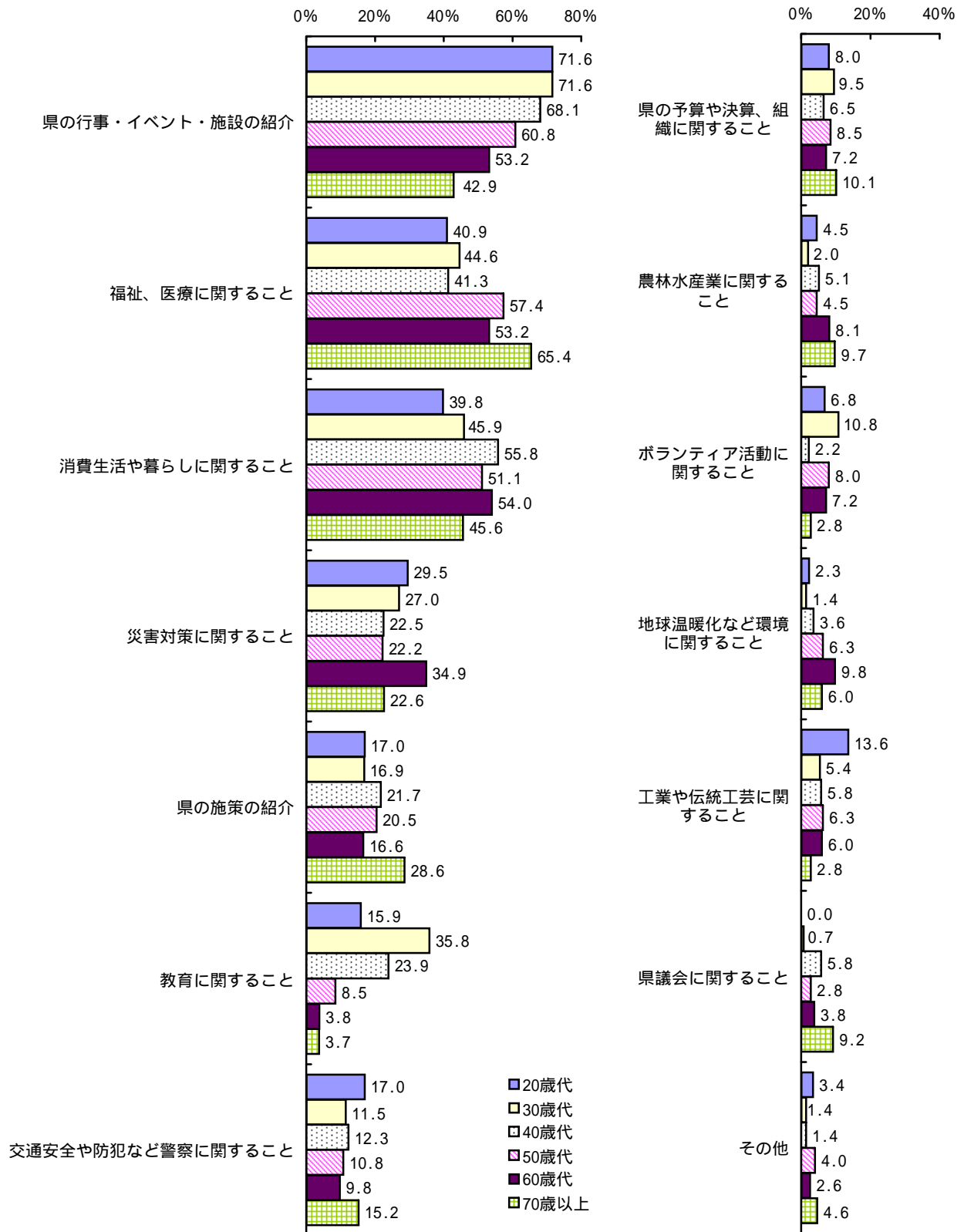
この他、農林漁業では「県の行事・イベント・施設の紹介」で他の職種と比較して特に少なくなっているが、「農林水産業に関すること」は52.2%と特に多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、70歳以上では「福祉、医療に関すること」と答えた人の割合が最も多く、50歳代以下では「県の行事・イベント・施設の紹介」が最も多く、60歳代では、「消費生活や暮らしに関すること」が最も多くなっている。

また、「災害に関すること」と答えた人の割合は60歳代で他の年齢層と比較して多く、「教育に関すること」は30歳代で特に多くなっている。



問19 県政情報の情報源

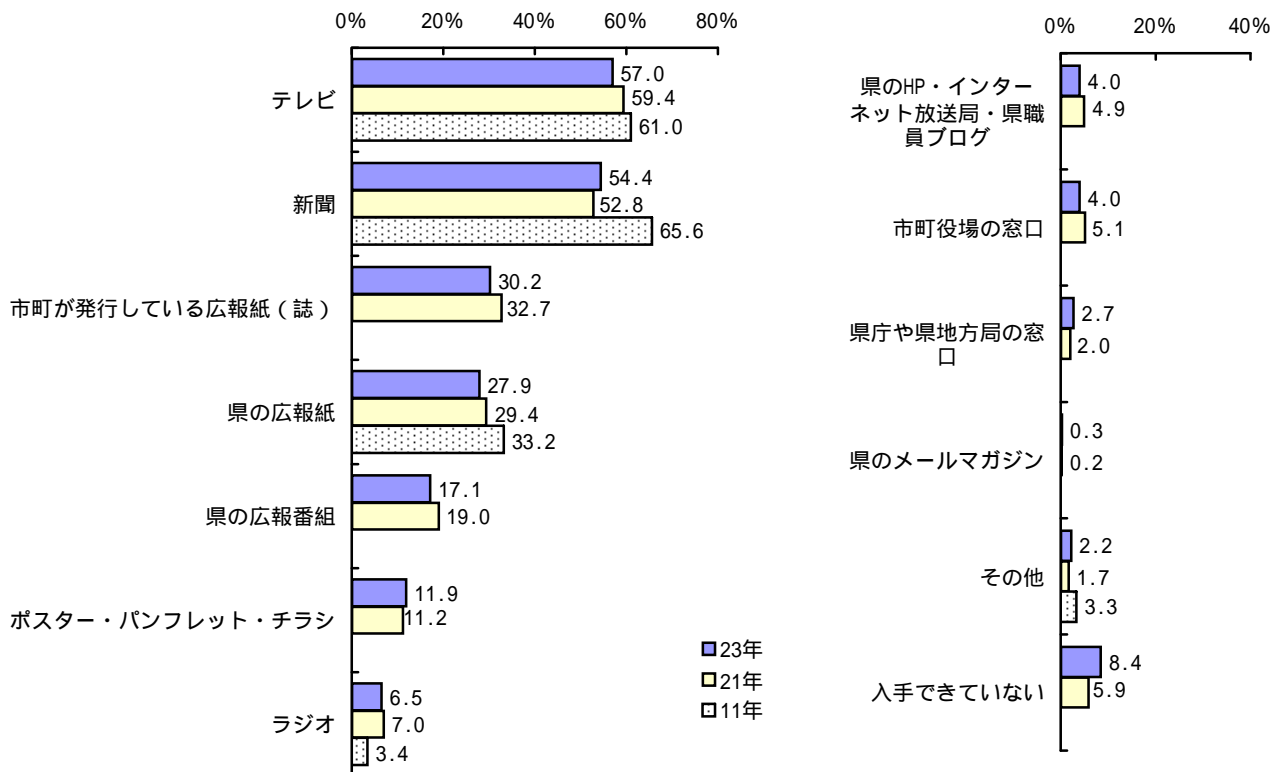
あなたは、県の仕事や内容を主に何によって知ることが多いですか。次の中から三つまで選んで番号を で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 県の広報紙		27.9
2 県の広報番組(テレビ・ラジオ)		17.1
3 新聞		54.4
4 テレビ		57.0
5 ラジオ		6.5
6 県のホームページ・インターネット 放送局・県職員ブログ(インターネット ト)		4.0
7 県のメールマガジン		0.3
8 ポスター・パンフレット・チラシ		11.9
9 県庁や県地方局の窓口		2.7
10 市町役場の窓口		4.0
11 市町が発行している広報紙(誌)		30.2
12 その他		2.2
13 入手できていない		8.4

(「6のうちインターネット放送局・県職員ブログ」は今回調査から)

県の仕事や内容を主に何によって知ることが多いかを聞いたところ、「テレビ」と答えた人の割合が57.0%と最も多く、以下「新聞」(54.4%)、「市町が発行している広報紙(誌)」(30.2%)、「県の広報紙」(27.9%)の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「テレビ」と答えた人の割合が2.4%減少(平成11年調査より4.0%減少)しているほか、「入手できていない」が2.5%増加している。

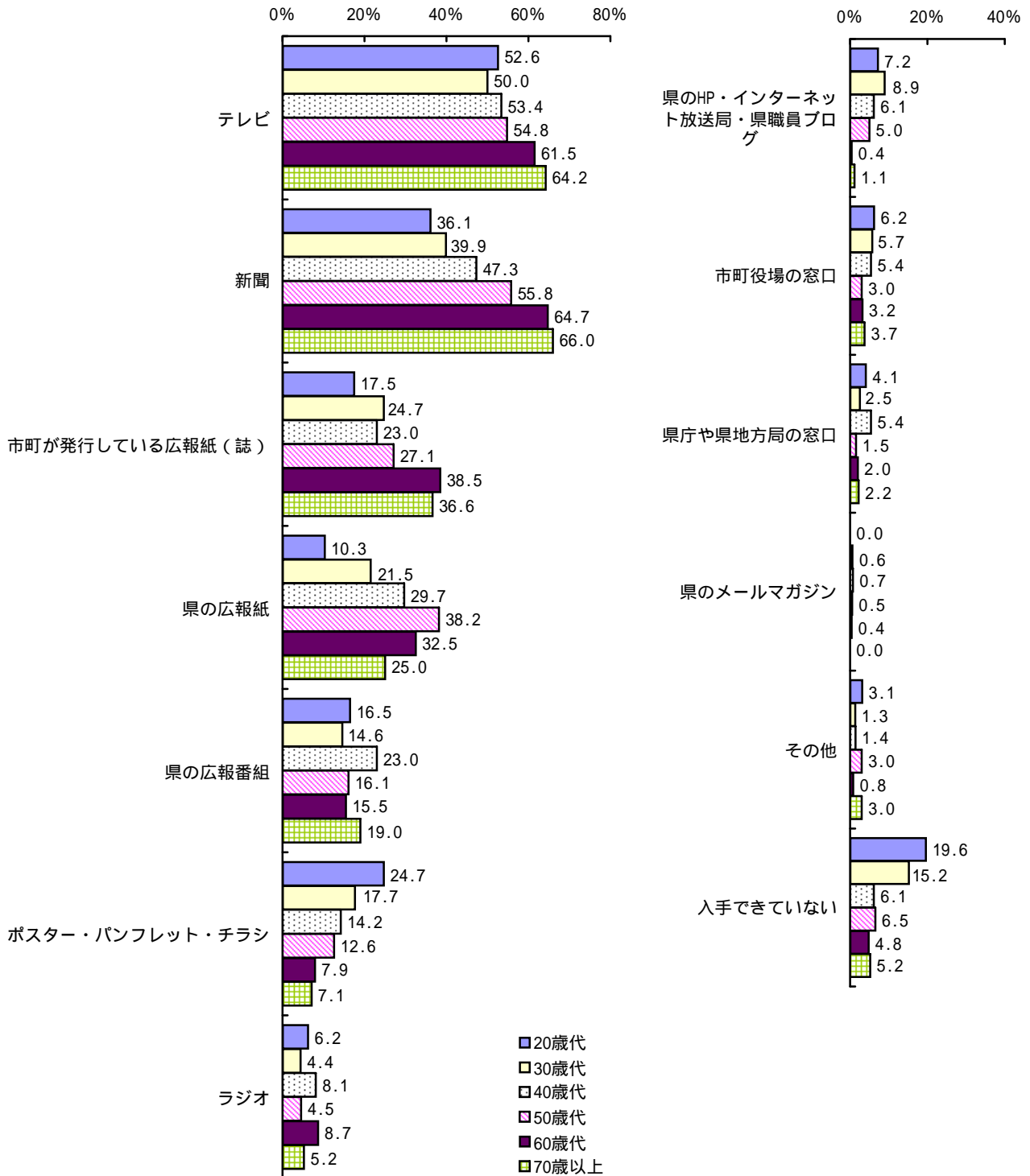


【年齢別】

年齢別にみると、40歳代以下では「テレビ」と答えた人の割合が最も多くなっている。一方、50歳代以上では「新聞」が最も多くなっているが、「テレビ」との差はわずかである。

また、「新聞」と答えた人の割合は50歳代以上では50%を超えているが、30歳代以下では40%以下となっている。

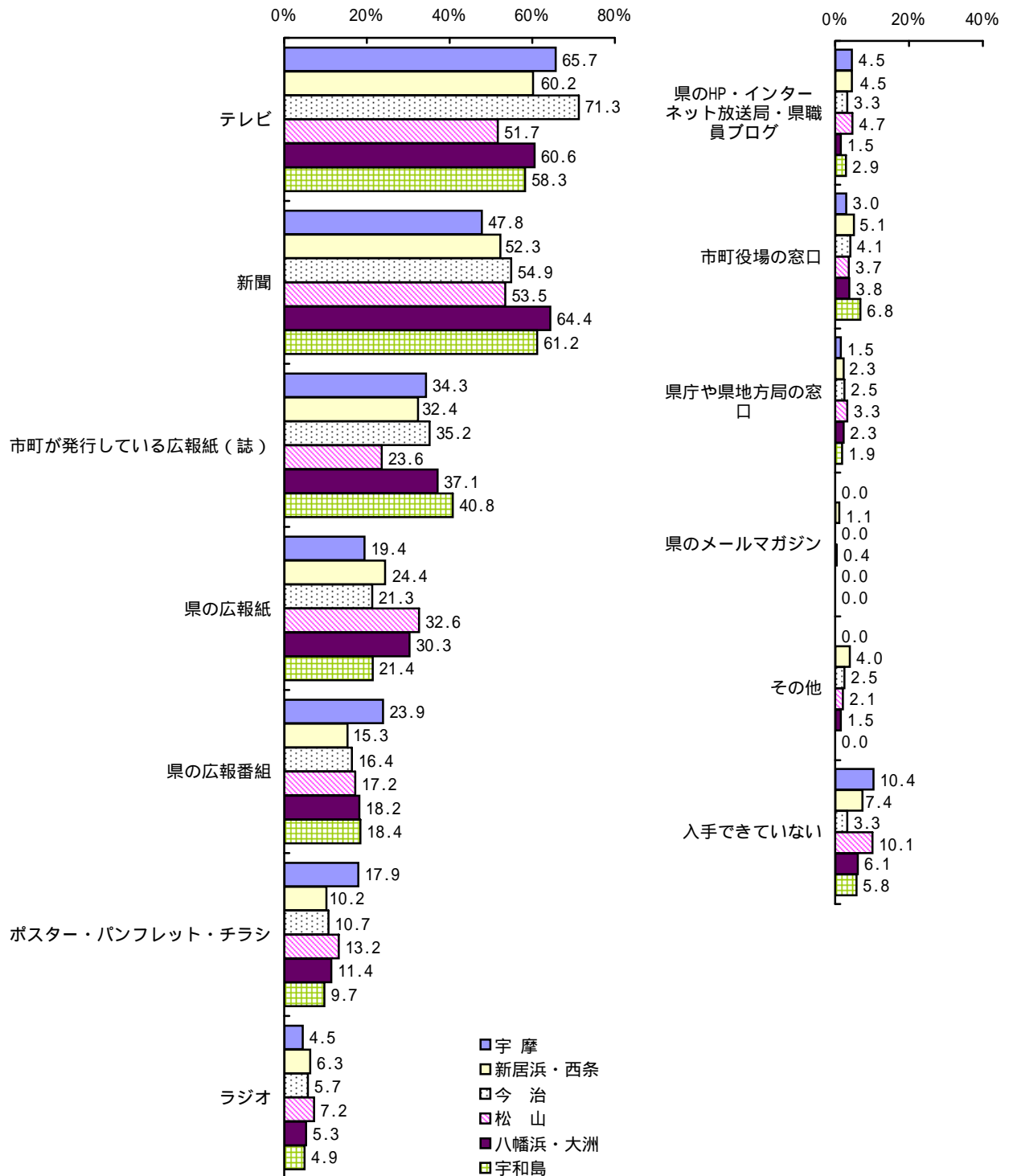
この他、「市町が発行している広報紙（誌）」と答えた人の割合は60歳代以上で他の年齢層と比較して多く、「県の広報紙」は50歳代で多くなっており、「ポスター・パンフレット・チラシ」及び「県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログ」は概ね年齢が低くなるほど多くなっている。特に「県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログ」は、全体では4.0%にすぎないが、30歳代では9%近くある。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域、新居浜・西条圏域及び今治圏域では「テレビ」と答えた人の割合が最も多く、中でも今治圏域（71.3%：前回調査より15.4%増加）で特に多くなっており、松山圏域、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では「新聞」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、宇摩圏域では、「県の広報番組」及び「ポスター・パンフレット・チラシ」と答えた人の割合が、他の圏域と比較して多くなっている。



問20 今後の広報活動の取組み

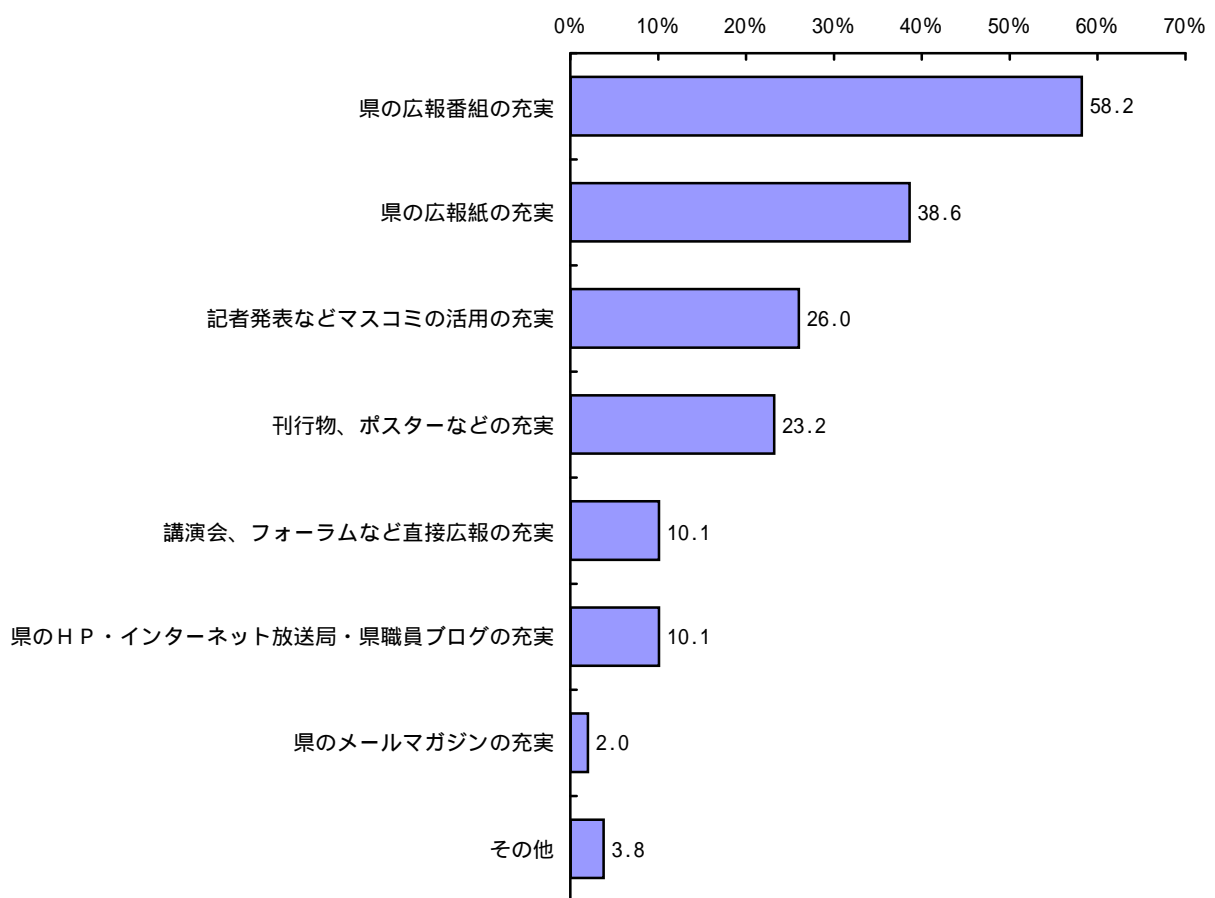
あなたは、より多くの県民の方が県政に関する情報を得るためには、どのような広報に取り組みが良いと思いますか。次の中から二つまで選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

1 県の広報紙の充実 (発行回数やページ数の増)	38.6
2 県の広報番組(テレビ・ラジオ)の充実 (放送回数や放送時間の増)	58.2
3 記者発表などマスコミの活用の充実	26.0
4 講演会、フォーラム、県政出前講座など 直接広報の充実	10.1
5 県のホームページ・インターネット放送局 ・県職員ブログの充実	10.1
6 県のメールマガジンの充実 (発行回数や掲載項目の増)	2.0
7 刊行物、ポスター、パンフレットの充実 (種類や部数の増)	23.2
8 その他	3.8

(「5」のうち、インターネット放送局・県職員ブログについては今回調査から)

より多くの県民の方が県政に関する情報を得るためには、どのような広報に取り組みが良いと思うかを聞いたところ、「県の広報番組(テレビ・ラジオ)の充実」と答えた人の割合が58.2%と最も多く、以下「県の広報紙の充実」(38.6%)、「記者発表などマスコミの活用の充実」(26.0%)、「刊行物、ポスター、パンフレットの充実」(23.2%)の順となっている。

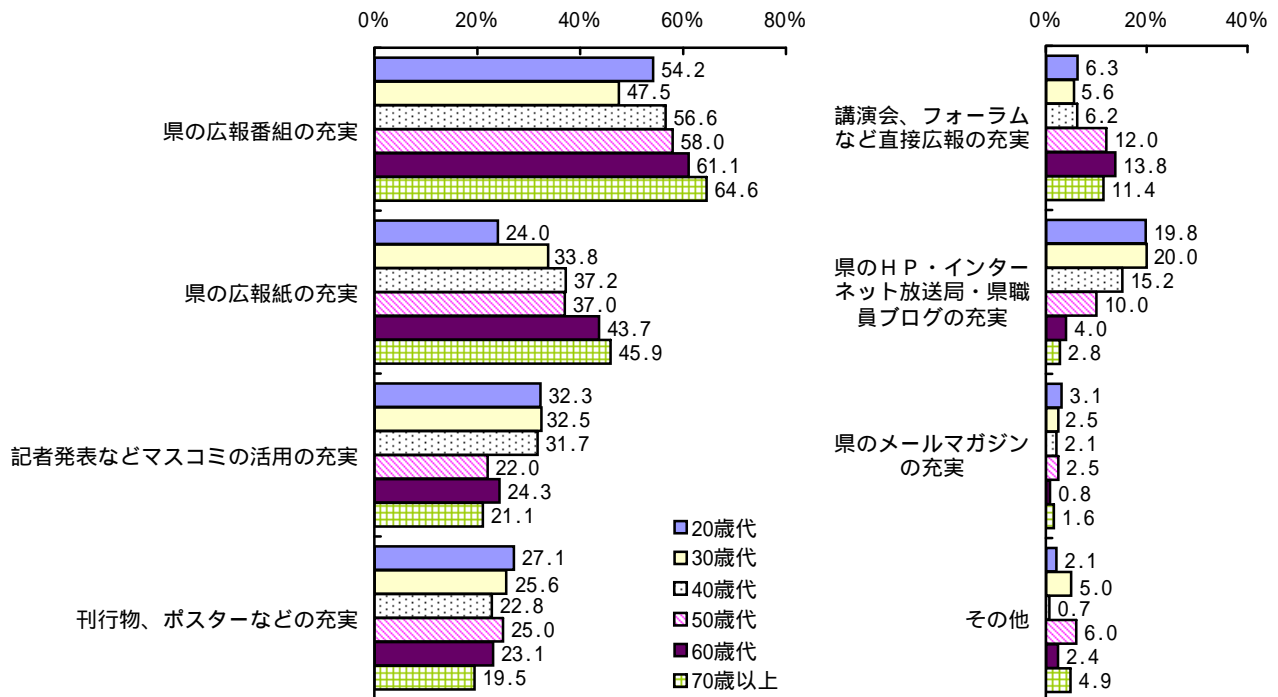


【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、60歳代（61.1%）及び70歳以上（64.6%）で60%を超えている。

また、「県の広報紙の充実」と答えた人の割合は60歳代以上で他の年齢層と比較して多く、「記者発表などマスコミの活用」は40歳代以下で多く、「講演会、フォーラムなど直接広報の充実」は50歳代以上で多くなっている。

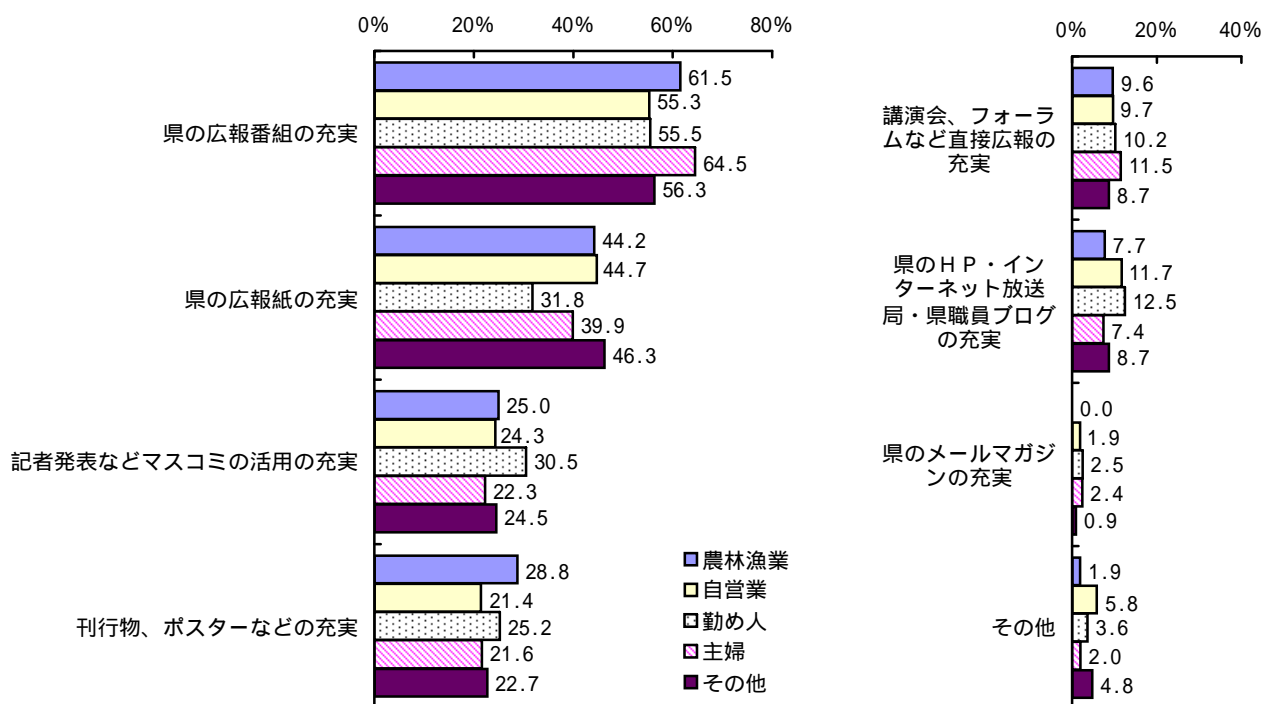
この他、「県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログの充実」と答えた人の割合は概ね年齢が低いほど多くなっており、特に、20歳代及び30歳代では20%前後になっている。



【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、中でも農林漁業（61.5%）及び主婦（64.5%）で他の職種と比較して多くなっている。

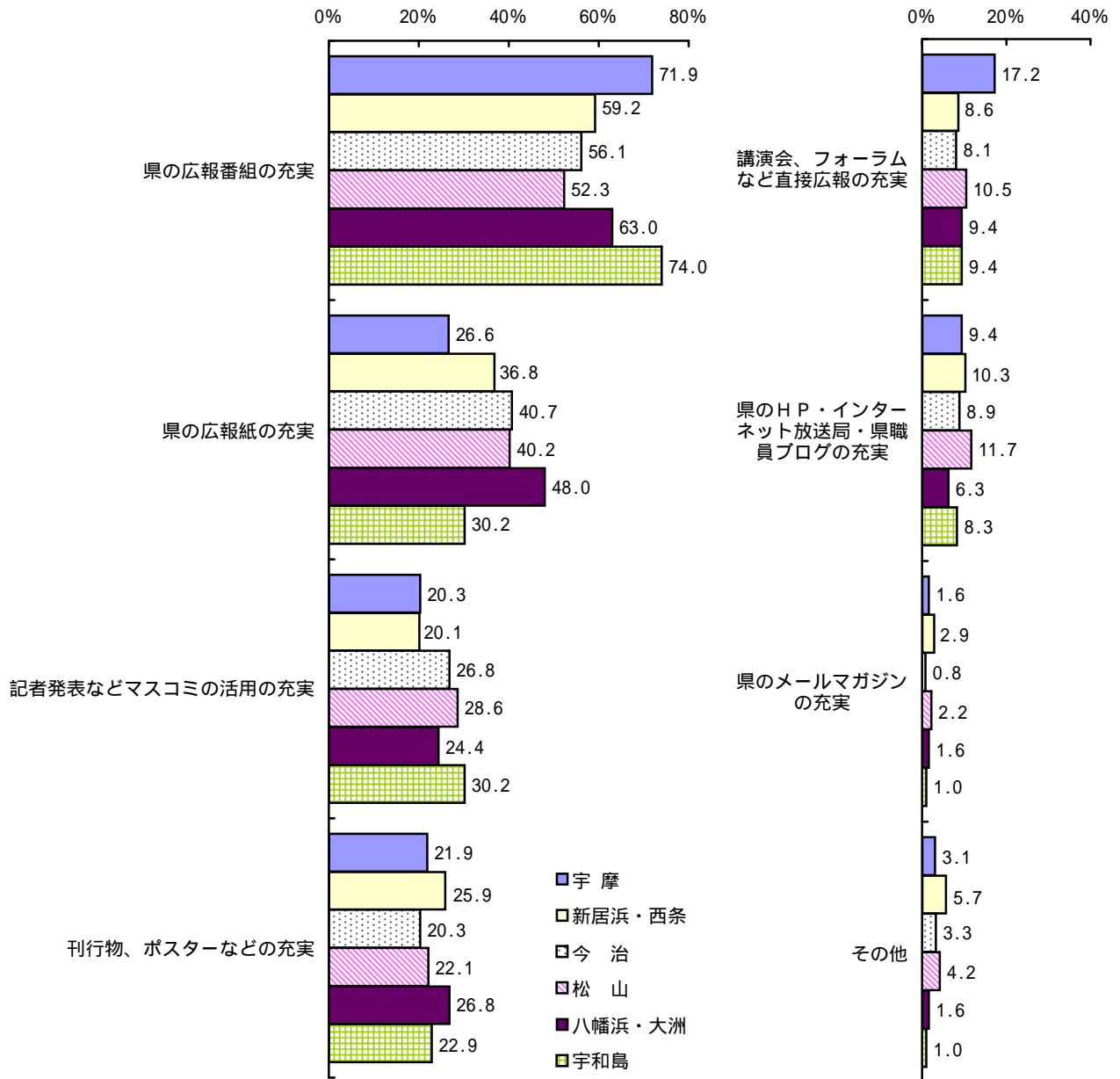
また、「記者発表などマスコミの活用」は勤め人で、「県のホームページ・インターネット放送局・県職員ブログの充実」は自営業及び勤め人で他の職種と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「県の広報番組（テレビ・ラジオ）の充実」と答えた人の割合が最も多く、中でも宇摩圏域（71.9%）及び宇和島圏域（74.0%）で他の圏域と比較して多くなっている。

また、「県の広報紙の充実」と答えた人の割合は八幡浜・大洲圏域で他の圏域と比較して多く、「記者発表などマスコミの活用」は今治圏域、松山圏域及び宇和島圏域で多く、「講演会、フォーラムなど直接広報の充実」は宇摩圏域で多くなっている。



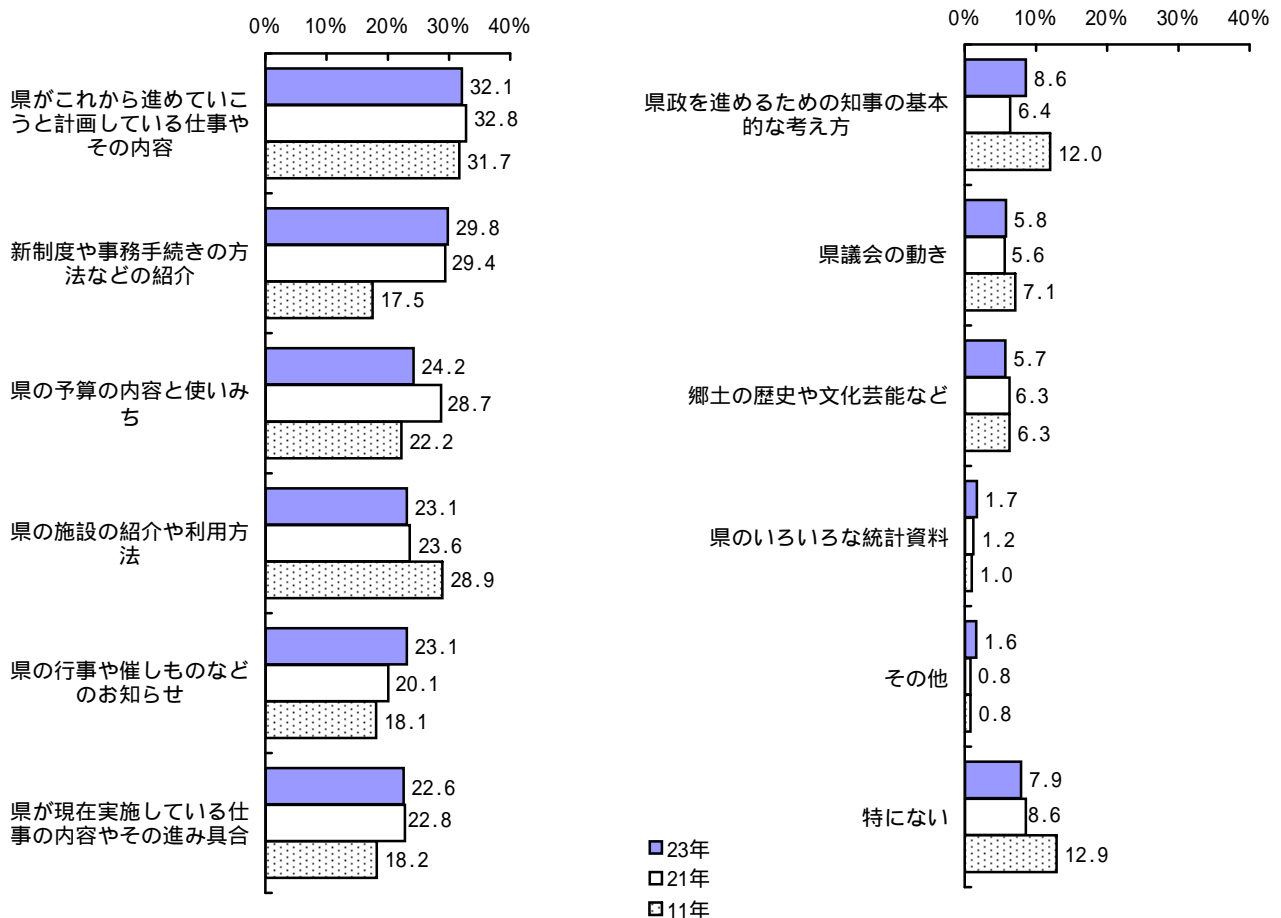
問21 県政について知りたい情報

あなたが、県政について日ごろから特に知りたいと思っていることはどのようなことですか。次の中から二つまで選んで番号を で囲んでください。

(複数回答) (%)

1 県議会の動き	5.8
2 県の予算の内容と使いみち	24.2
3 県が現在実施している仕事の内容やその進み具合	22.6
4 新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介	29.8
5 県の施設の紹介や利用方法	23.1
6 県の行事や催しものなどのお知らせ	23.1
7 郷土の歴史や文化芸能など	5.7
8 県のいろいろな統計資料	1.7
9 県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容	32.1
10 県政を進めるための知事の基本的な考え方	8.6
11 その他	1.6
12 特にない	7.9

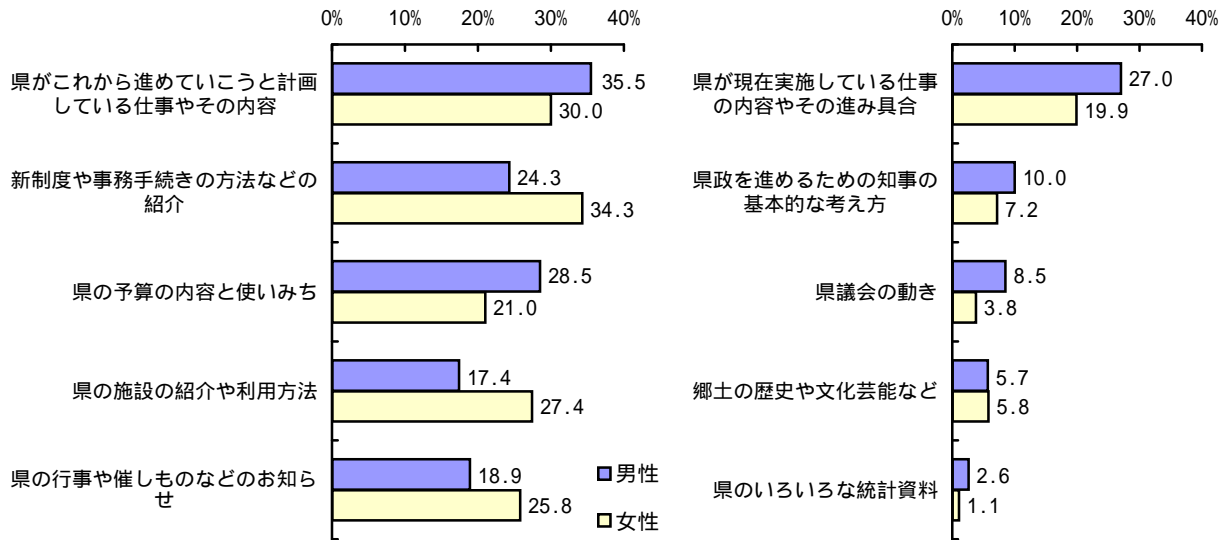
県政について日ごろから特に知りたいと思っていることを聞いたところ、「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」と答えた人の割合が32.1%と最も多く、以下「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」(29.8%)、「県の予算の内容と使いみち」(24.2%)、「県の施設の紹介や利用方法」(23.1%)、「県の行事や催しものなどのお知らせ」(23.1%)の順となっている。また、前回調査と比較すると、「県の予算の内容と使いみち」と答えた人の割合が4.5%減少し、「県の行事や催しものなどのお知らせ」が3.0%増加している。



【性別】

性別にみると、男性では「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」と答えた人の割合が最も多く、女性より5.5%多くなっている。一方、女性では「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」が最も多く、男性より10.0%多くなっている。

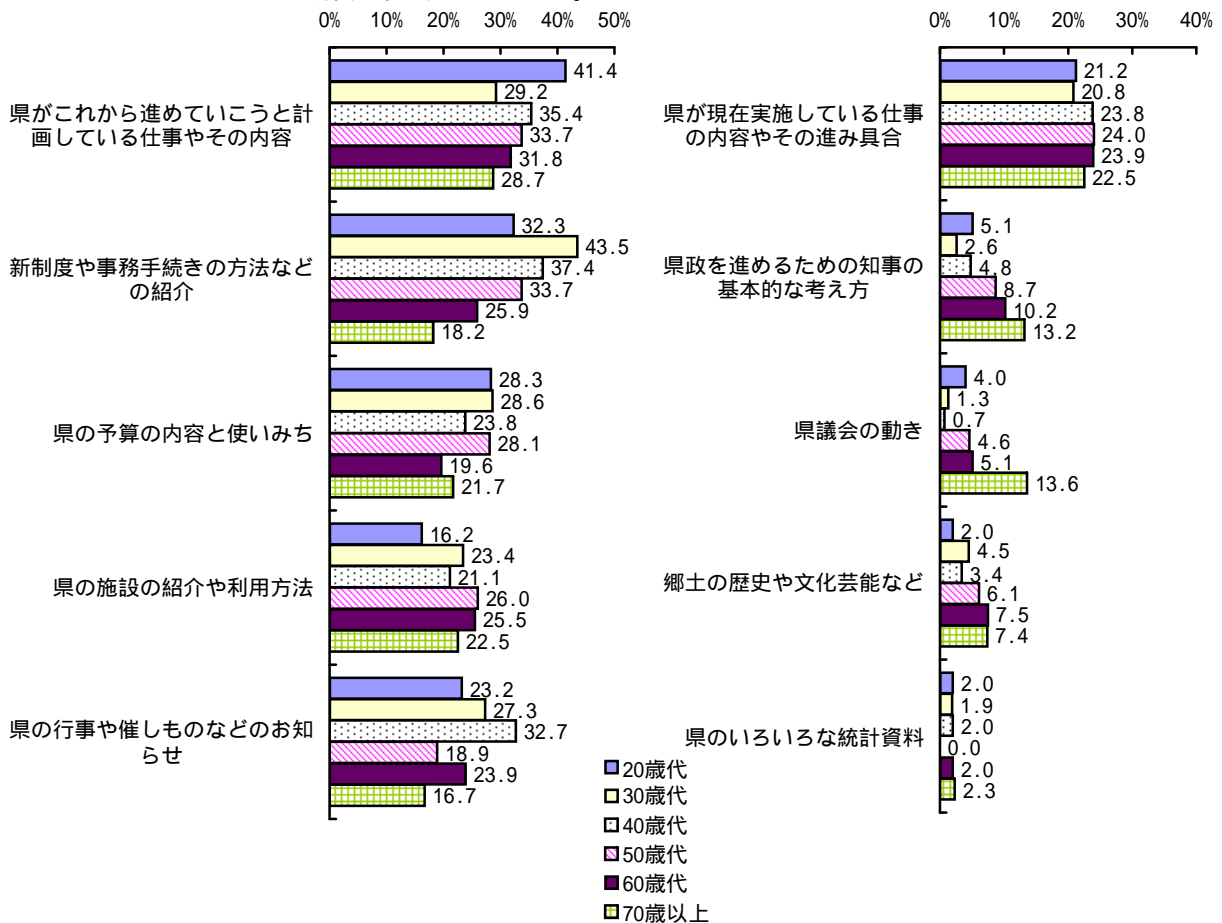
この他、「県の予算の内容と使いみち」、「県が現在実施している仕事の内容やその進み具合」、「県政を進めるための知事の基本的な考え方」などは男性の方が、「県の施設の紹介や利用方法」、「県の行事や催しものなどのお知らせ」などは女性の方が多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代及び60歳代以上では「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」と答えた人の割合が最も多く、中でも20歳代では前回調査より4.8%増加している。30歳代及び40歳代では「新しくできた制度や事務手続の方法などの紹介」が最も多くなっており、50歳代はこれらの2項目が同率である。

また、この他、「県がこれから進めていこうと計画している仕事やその内容」は20歳代が他の年齢層と比較して多く、「新制度や事務手続の方法などの紹介」は30歳代が多く、「県の行事や催しものなどのお知らせ」は40歳代が多くなっている。



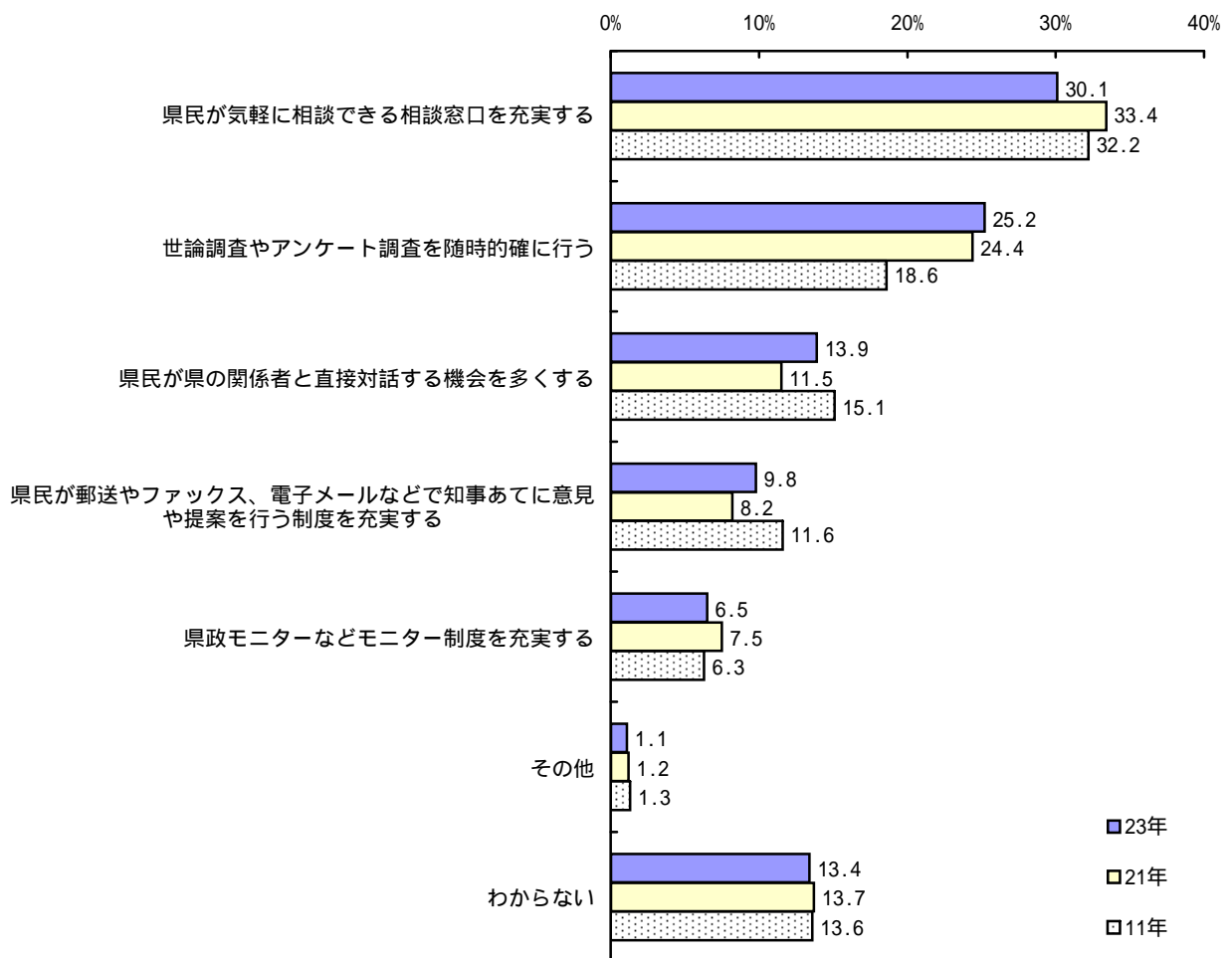
問22 県民の声を県政に反映させる手段

あなたは、県民の皆さんからの意見や要望を県政に反映させる手段として、最も良いと思われるものは何ですか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 世論調査やアンケート調査を随時的確に行う	25.2
2 県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする	13.9
3 県政モニターなどモニター制度を充実する	6.5
4 県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する	9.8
5 県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する	30.1
6 その他	1.1
7 わからない	13.4

県民の意見や要望を県政に反映させる手段として、最も良いと思われる方法を聞いたところ、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が30.1%と最も多く、以下「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」(25.2%)、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」(13.9%)、「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」(9.8%)となっている。

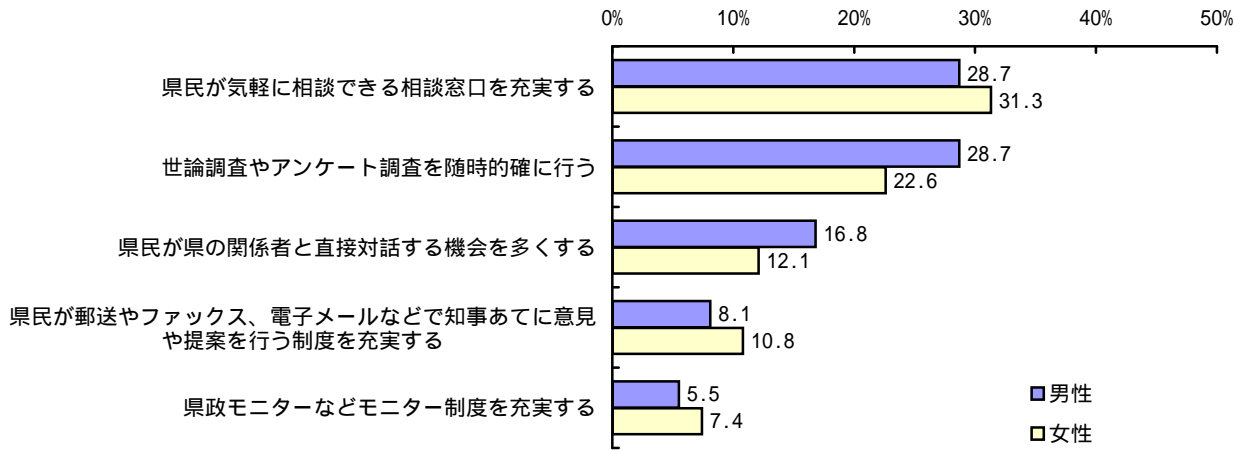
また、前回調査と比較すると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が3.3%減少し、「県民が県の関係者と直接対話する機会を多くする」は2.4%増加している。



【性別】

性別にみると、男性は「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人と「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」と答えた人の割合が同率で最も多く、女性は「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が31.3%と最も多いが、前回調査と比較すると5.4%減少している。

また、「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」と答えた人の割合は男性（28.7%）の方が女性（22.6%）より6.1%多くなっている。

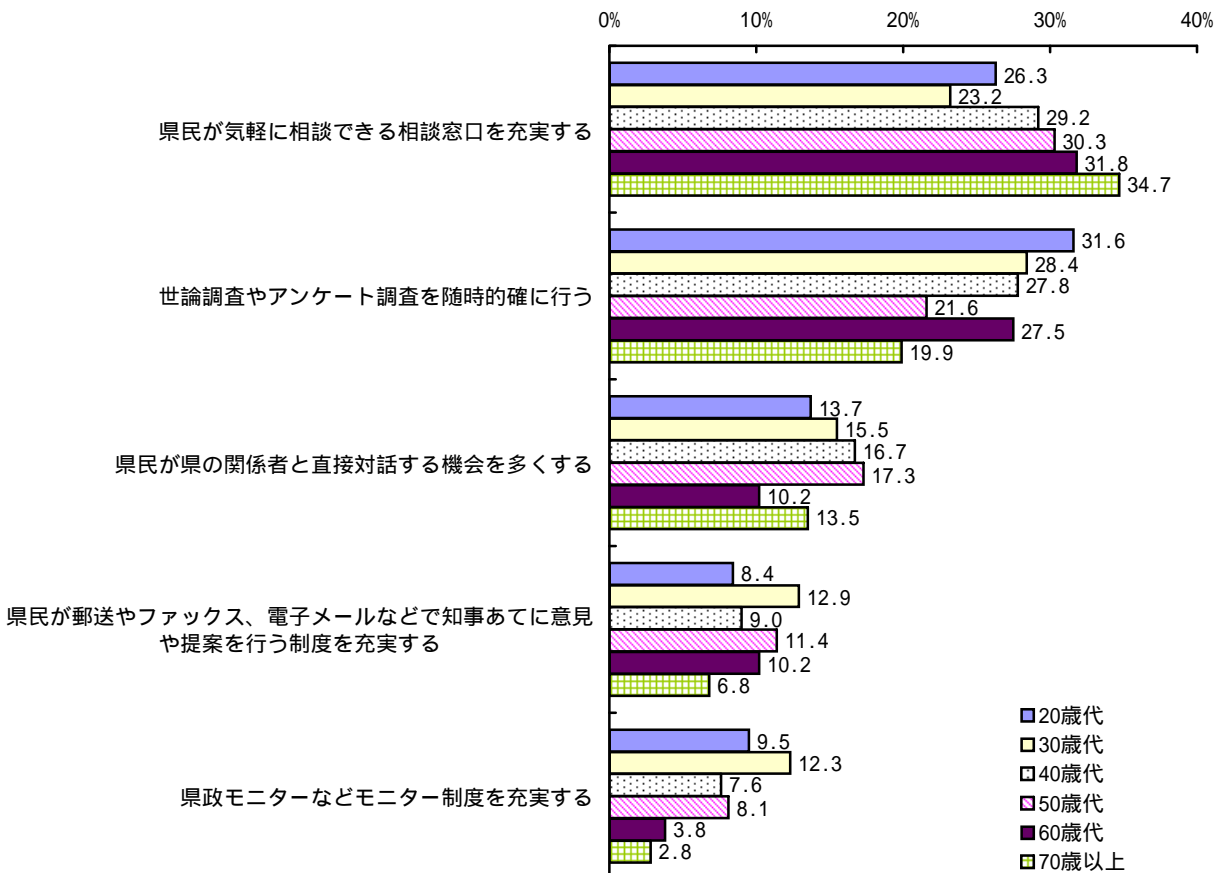


【年齢別】

年齢別にみると、40歳代以上で「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が最も多くなっている。20歳代及び30歳代では「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」が最も多い。

また、「世論調査やアンケート調査を随時的確に行う」と答えた人の割合は50歳代及び70歳以上で他の年齢層と比較して特に少なくなっている。

この他、前回調査と比較すると、「県民が気軽に相談できる相談窓口を充実する」と答えた人の割合が20歳代（11.3%増加）及び60歳代（9.6%減少）で大幅に変化し、「県民が郵送やファックス、電子メールなどで知事あてに意見や提案を行う制度を充実する」は20歳代（5.8%減少）及び60歳代（6.6%増加）で大幅に変化している。



問23 県民の声の伝達方法

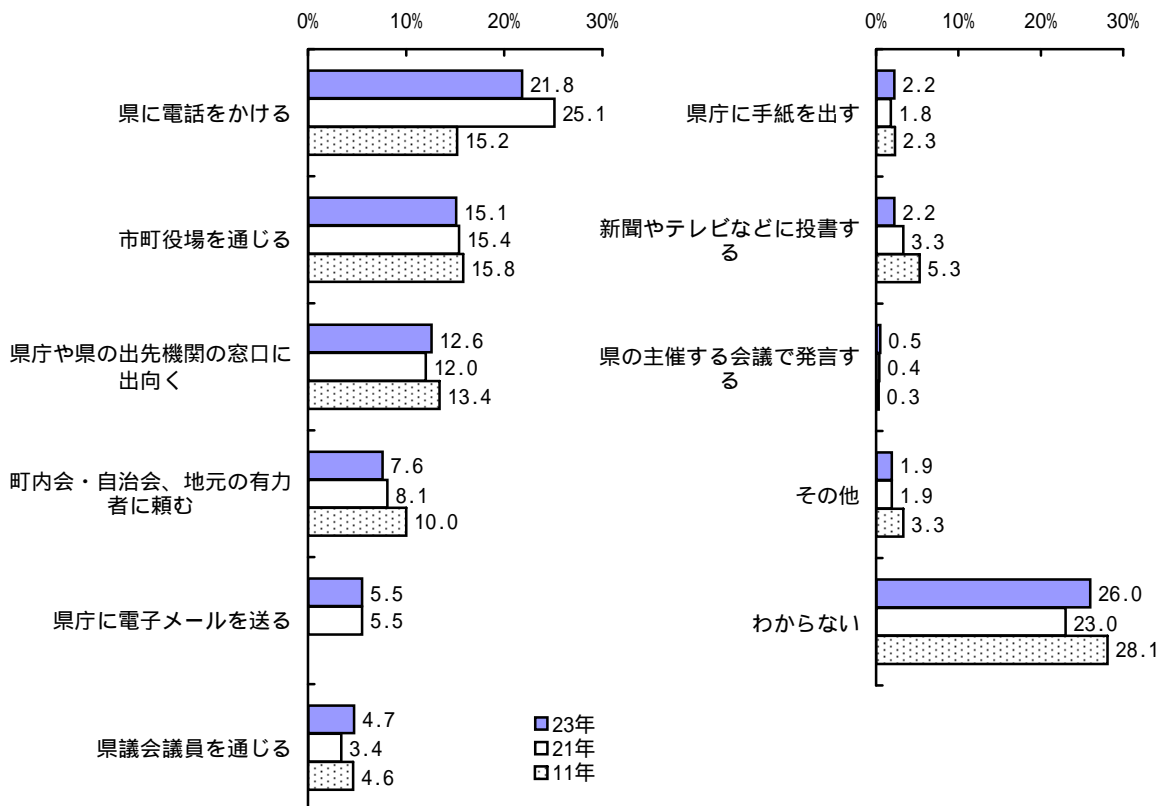
あなたは、県に意見、要望、苦情を伝えたいとき、どのような方法をとられますか。次の中から一つ選んで番号を で囲んでください。

	(%)
1 県庁や県の出先機関の窓口に出向く	12.6
2 県庁に手紙を出す	2.2
3 県庁に電子メールを送る	5.5
4 県に電話をかける	21.8
5 県の主催する会議で発言する	0.5
6 市町役場を通じる	15.1
7 町内会・自治会、地元の有力者に頼む	7.6
8 県議会議員を通じる	4.7
9 新聞やテレビなどに投書する	2.2
10 その他	1.9
11 わからない	26.0

県に意見や要望、苦情を伝えたいとき、どのような方法をとるかを聞いたところ、「県に電話をかける」と答えた人の割合が21.8%と最も多く、以下「市町役場を通じる」(15.1%)、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」(12.6%)の順となっている。

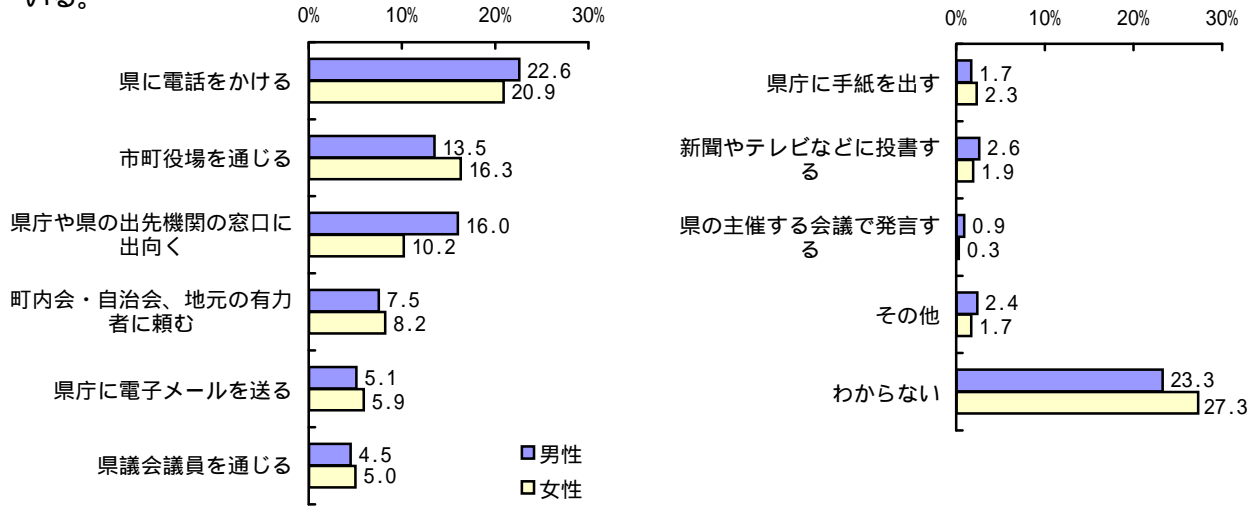
また、前回調査と比較すると「県に電話をかける」と答えた人の割合が3.3%減少している以外は、大きな変化が見られないが、平成11年調査と比較すると、「県に電話をかける」と答えた人の割合が6.6%増加している一方、「新聞やテレビなどに投書する」は3.1%減少している。

なお、「わからない」と答えた人の割合が26.0%を占めている。



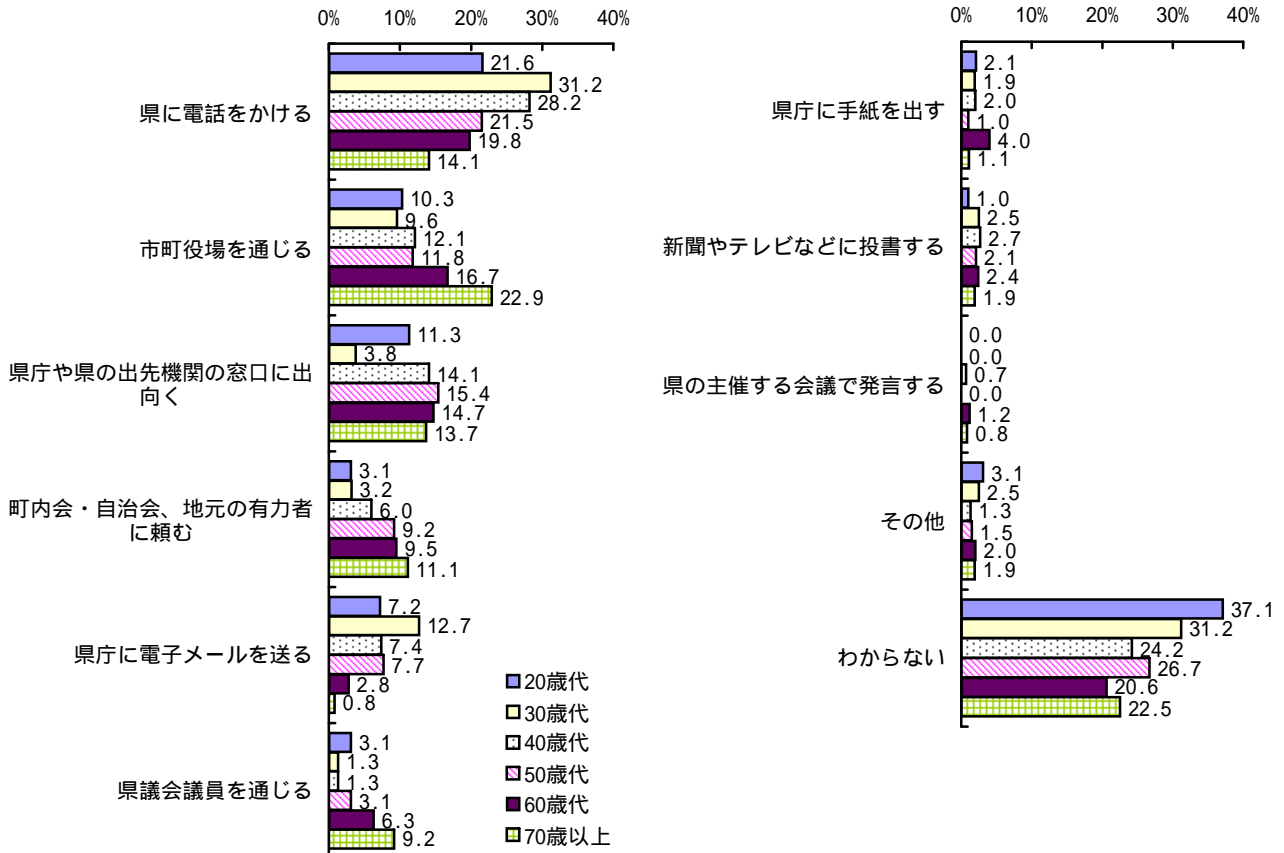
【性別】

性別にみると、男女共に「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多くなっている。
 また、「市町役場を通じる」と答えた人の割合は女性（16.3%）の方が男性（13.5%）より2.8%多く、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」は男性（16.0%）の方が女性（10.2%）より5.8%多くなっている。
 なお、「わからない」と答えた人の割合は、男性23.3%、女性27.3%で、女性の方が4.0%多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代から60歳代では「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多く、中でも30歳代（31.2%）で他の年齢層と比較して多くなっている。70歳以上では「市町役場を通じる」が最も多くなっている。
 また、「県庁に電子メールを送る」と答えた人の割合が、全体では5.5%にすぎないが、30歳代では12.7%となっているほか、「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」は50歳代以上で、「県議会議員を通じる」は60歳代以上で他の年齢層と比較して多くなっている。
 この他、前回調査と比較すると、「市町役場を通じる」と答えた人の割合は20歳代（6.2%増加）及び60歳代（6.4%減少）で、「県庁や県の出先機関の窓口に出向く」は30歳代（8.2%減少）で大幅に変化している。
 なお、「わからない」と答えた人の割合は、20歳代（37.1%）及び30歳代（31.2%）で特に多くなっている。

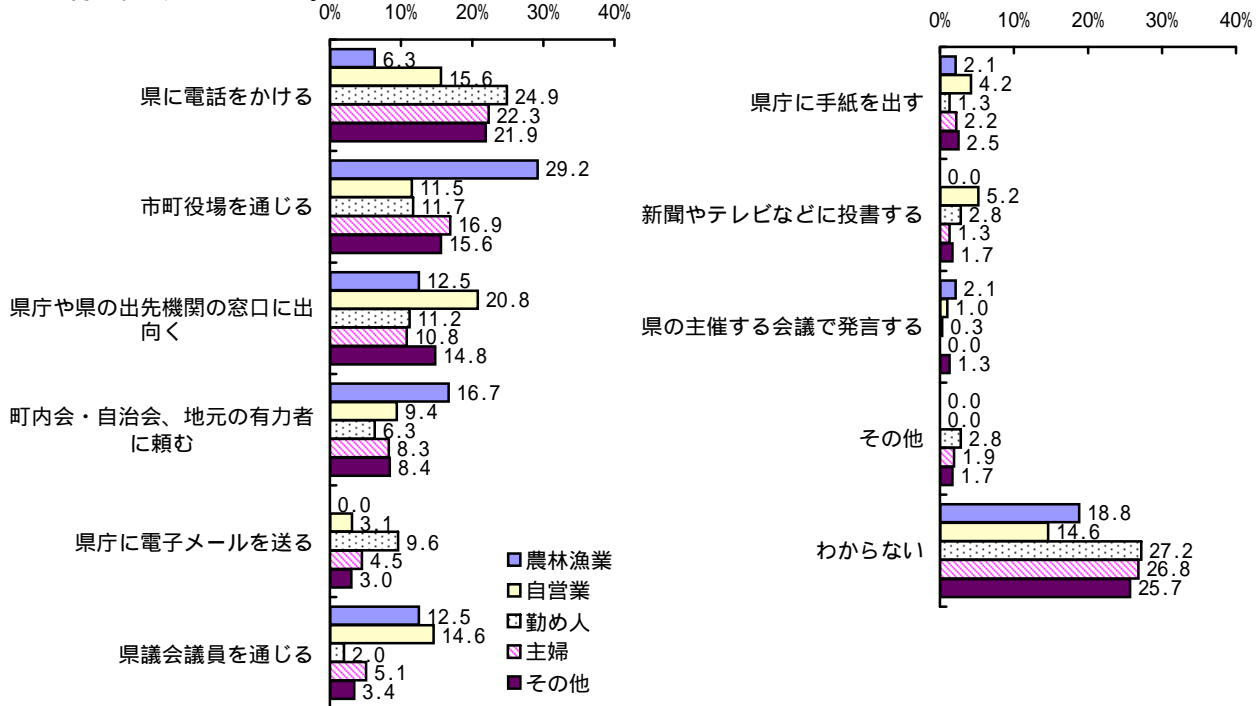


【職業別】

職業別にみると、勤め人、主婦及びその他で「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多く、農林漁業では「市町役場を通じる」が最も多くなっている。自営業は「県庁や県の出先機関の窓口に向く」が最も多く、前回調査と比較すると7.4%増加している。

また、「町内会・自治会、地元の有力者に頼む」と答えた人の割合が農林漁業（16.7%）で他の職種と比較して多く、「県議会議員を通じる」と答えた人の割合が農林漁業（12.5%）及び自営業（14.6%）で多くなっている。

なお、「わからない」と答えた人の割合は、勤め人（27.2%）、主婦（26.8%）及びその他（25.7%）で特に多くなっている。

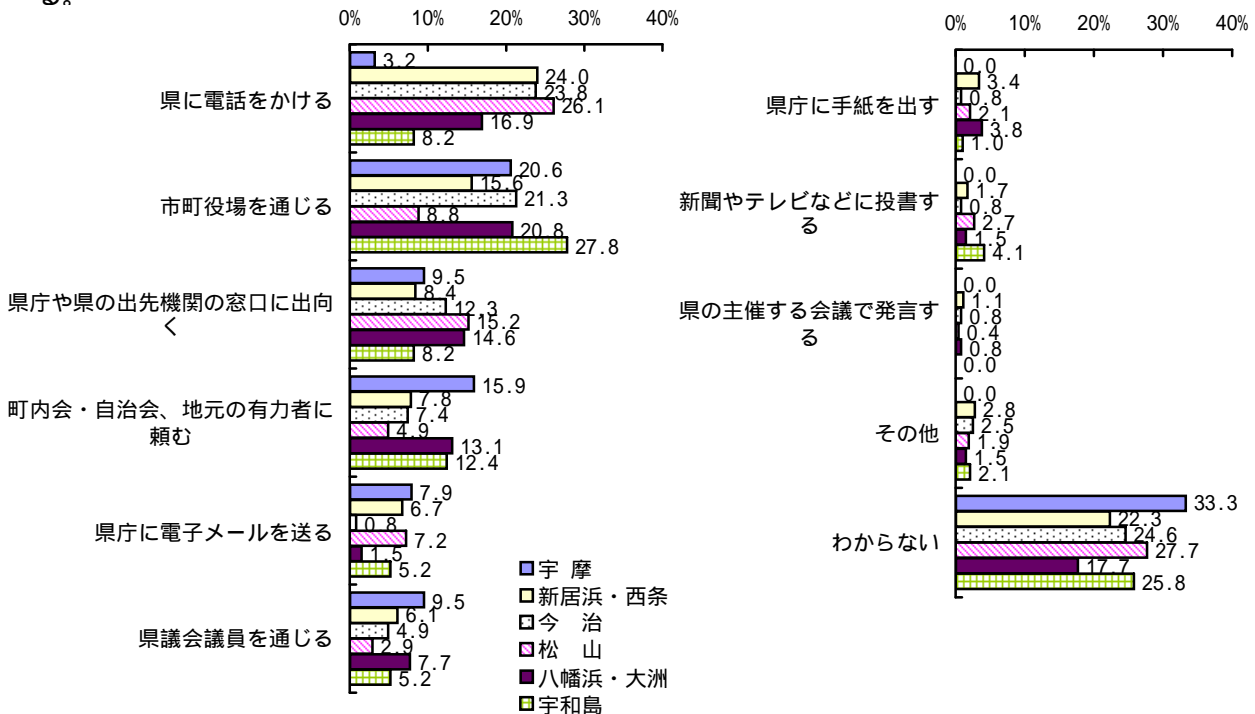


【生活圏域別】

生活圏域別にみると、新居浜・西条圏域、今治圏域及び松山圏域では「県に電話をかける」と答えた人の割合が最も多くなっている。宇摩圏域、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域では「市町役場を通じる」が最も多く、前回調査と同じ傾向である。

また、「県に電話をかける」と答えた人の割合が宇摩圏域及び宇和島圏域で他の圏域と比較して特に少なく、「市町役場を通じる」と答えた人の割合が松山圏域で特に少なくなっている。

なお、「わからない」と答えた人の割合は、八幡浜・大洲圏域を除く全ての圏域で20%を超えている。



問24 県政出前講座の周知度

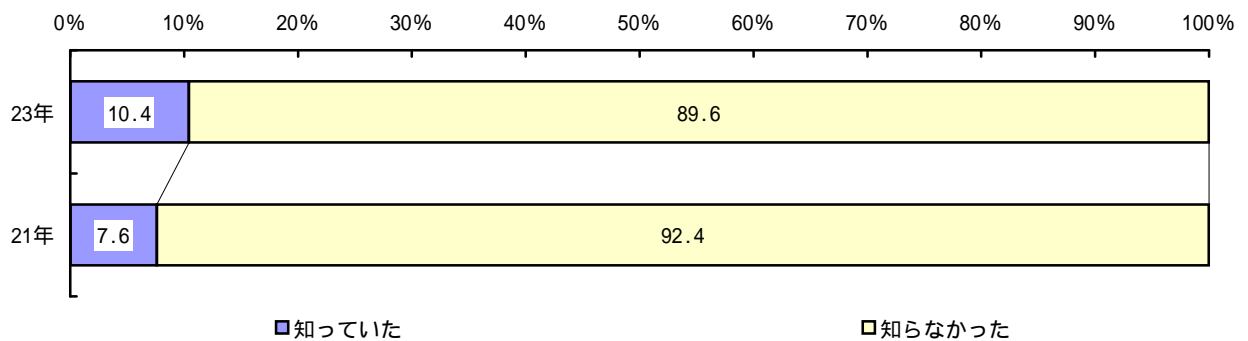
県では、県民の皆さんや団体からのご要望に応じ、地域や職場で行われる集会に職員を派遣し、県の施策や事業等をご説明する「県政出前講座」を実施しています。

あなたは、この「県政出前講座」をご存知でしたか。次の中から一つ選んで番号を で 囲んでください。

		(%)
1	知っていた	10.4
2	知らなかった	89.6

県政出前講座について知っているか聞いたところ、「知っていた」と答えた人の割合は10.4%で、残りの89.6%は「知らなかった」と答えている。

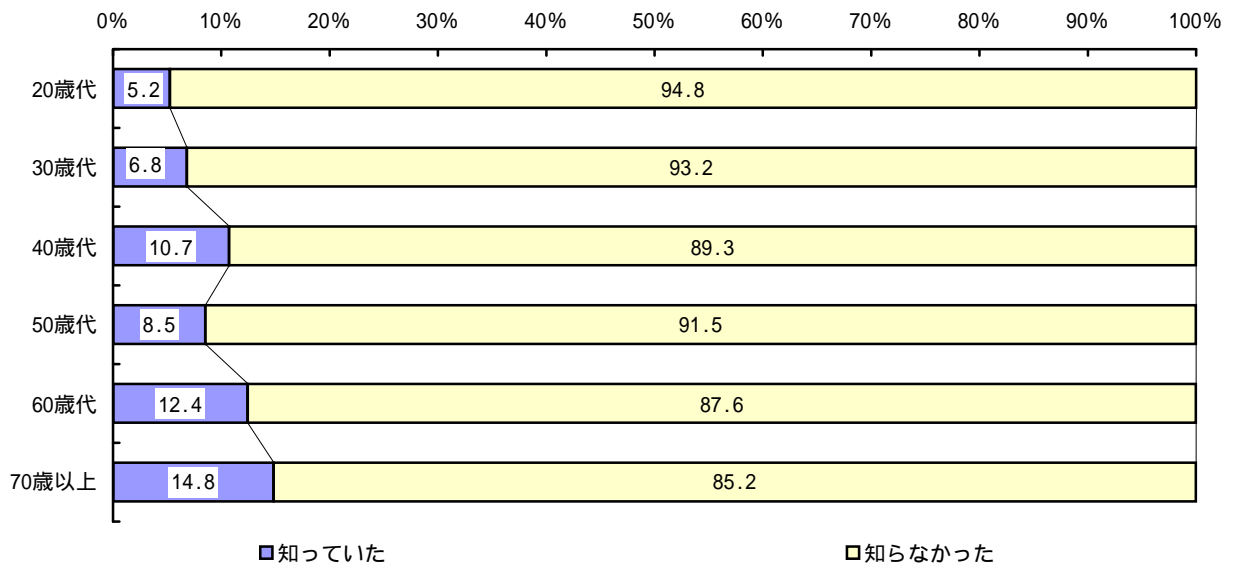
また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合は2.8%増加している。



【年齢別】

年齢別にみると、「知っていた」と答えた人の割合は概ね年齢が低いほど少なくなっており、中でも30歳代以下では7%以下となっている。

また、前回調査と比較すると、「知っていた」と答えた人の割合が50歳代をのぞく全ての年齢層で増加している。



問25 県政出前講座を利用したいかどうか

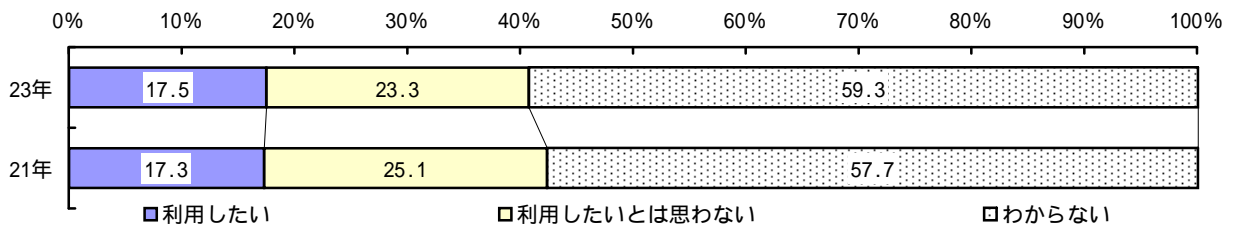
あなたは、「県政出前講座」を利用したいと思いますか。次の中から一つ選んで番号を
で囲んでください。

	(%)
1 利用したい	17.5
2 利用したいとは思わない	23.3
3 わからない	59.3

利用したいとは思わない主な理由を、次の中から一つ選んで番号を で囲んでくだ
さい。

	(回答者 = 272人) (%)
1 県政に興味がないから	15.4
2 利用したい講座テーマが設定されていないから	3.3
3 設定されている講座テーマを知らないから	15.8
4 講座は難しそうなイメージがあるから	15.1
5 利用する時間がないから	20.6
6 市町が実施している各種の講座を利用しているから	2.6
7 その他	9.2
8 特になし	18.0

県政出前講座を利用したいかどうか聞いたところ、「利用したい」と答えた人の割合が17.5%、
「利用したいとは思わない」が23.3%であるのに対し、「わからない」が59.3%となっている。
また、前回調査と比較すると、「利用したいとは思わない」は1.8%減少している。

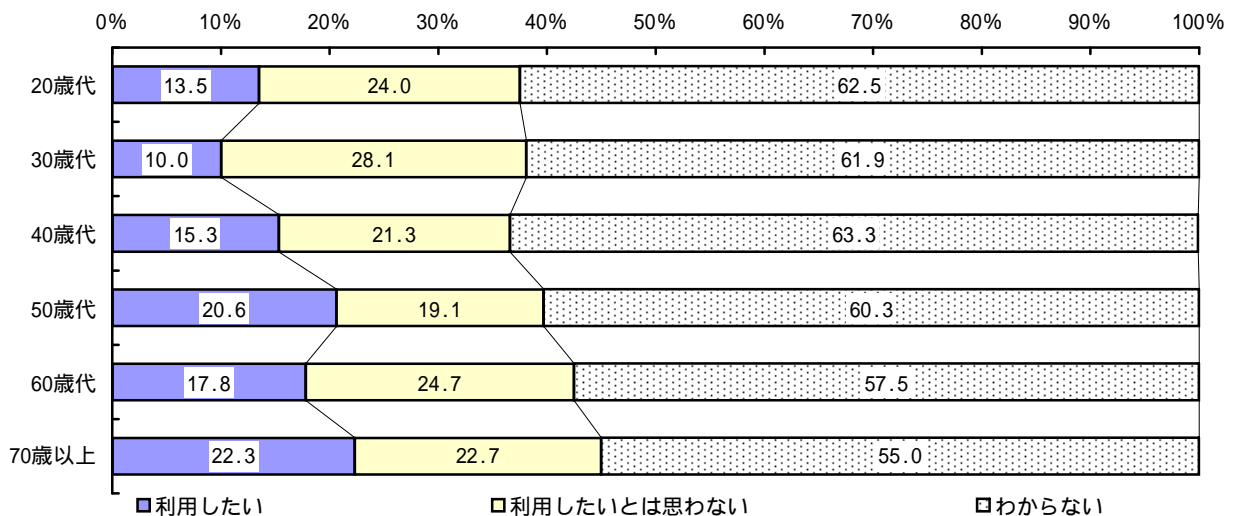


【年齢別】

年齢別にみると、「利用したい」と答えた人の割合は70歳以上で最も多く、「利用したいとは思わ
ない」は30歳代で最も多くなっている。

また、全ての年齢層で「わからない」が50%を超えている。

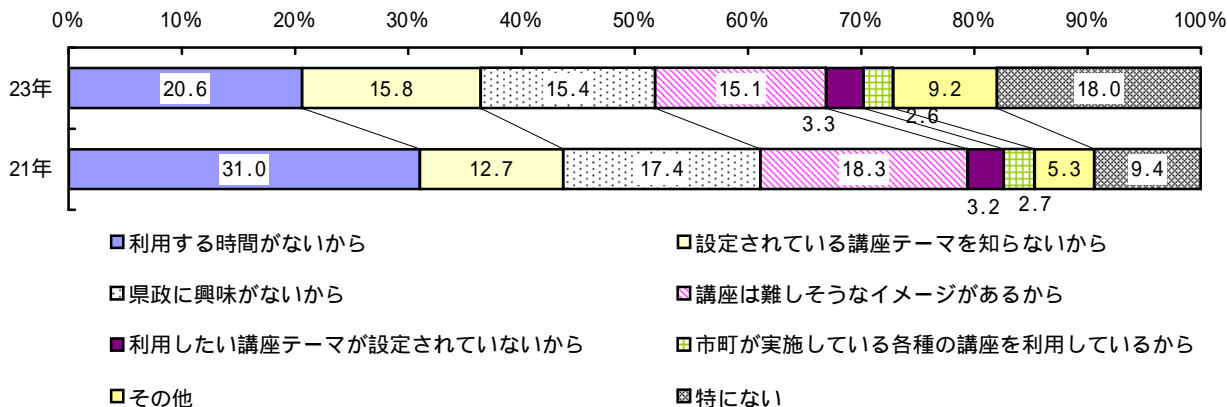
この他、前回調査と比較すると「利用したい」と答えた人の割合が20歳代で7.0%増加している。



《利用したいと思わない理由》

利用したいと思わない理由を聞いたところ、「利用する時間がないから」と答えた人の割合が20.6%で最も多く、以下「設定されている講座テーマを知らないから」（15.8%）、「県政に興味がないから」（15.4%）、「講座は難しそうないメージがあるから」（15.1%）の順となっている。

また、前回調査と比較すると、「利用する時間がないから」と答えた人の割合が10.4%減少しているほか、「設定されている講座テーマを知らないから」が3.1%増加し、「講座は難しそうないメージがあるから」が3.2%減少している。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代では「県政に興味がないから」と答えた人の割合が最も多く、40歳代から60歳代では「利用する時間がないから」が最も多く、30歳代では「利用する時間がないから」と「設定されている講座テーマを知らないから」が同率で多く、70歳以上では「特にな」が最も多くなっている。

また、「設定されている講座テーマを知らないから」と答えた人の割合は30歳代から50歳代で他の年齢層と比較して多くなっている。

このほか、前回調査と比較すると、「利用する時間がないから」と答えた人の割合が20歳代（25.7%減少）、30歳代（22.1%減少）、40歳代（20.7%減少）で、「県政に興味がないから」は20歳代（27.8%増加）で大幅に変化している。

